土佐清水市観光マスタープラン

平成 29 年 3 月

地区連携による「観光まちづくり」
土佐清水市

土佐清水ジオパーク構想

土佐清水市

〒787-0392 高知県土佐清水市天神町 11-2
TEL（代表） 0880-82-1111

土佐清水市観光マスタープラン　目次

序章　マスタープラン策定の概要

1　背景と目的 …… 1
2　策定方針 …… 2
3　マスタープランの位置づけ …… 2
4　マスタープランの期間 …… 3

１章　土佐清水市観光に係る現状と課題

1-1　観光環境の現状 …… 4
1-2　土佐清水市の観光資源 …… 5
　1-2-1　足摺地区の観光資源 …… 12
　1-2-2　竜串地区の観光資源 …… 12
1-3　土佐清水市の観光の動向 …… 13
　1-3-1　観光客の入込 …… 13
　1-3-2　施設利用状況 …… 15
　1-3-3　観光における消費状況 …… 16
　1-3-4　観光客の期待度と満足度 …… 17
1-4　交通体系 …… 19
　1-4-1　移動にかかる時間距離とアクセス …… 19
　1-4-2　公共交通 …… 20
　1-4-3　二次交通 …… 20
1-5　観光に係る活動団体 …… 22
1-6　土佐清水市における観光関連計画の状況 …… 23
　1-6-1　新足摺海洋館 …… 23
　1-6-2　足摺宇和海国立公園ビジターセンター …… 24
　1-6-3　爪白キャンプ場 …… 25
　1-6-4　土佐清水ジオパーク構想 …… 25
　1-6-5　幡多広域観光振興計画 …… 26
1-7　土佐清水市観光の課題 …… 27

２章　マスタープランの基本的な考え方

2-1　土佐清水市観光の理念 …… 29
2-2　目指すすがた …… 30
2-3　マスタープランの目標 …… 31

３章　マスタープラン実現戦略

3-1　戦略の基本方針 …… 32
3-2　戦略と取組一覧 …… 33
　テーマ１　－地域資源を守る …… 37
　　戦略①　地域資源の保全管理 …… 37
　　戦略②　地域を守る意識の醸成 …… 37

テーマ２　－資源の価値を広める …… 39
戦略③　ターゲットを明確にした情報発信 …… 39
戦略④　体験プログラムの拡充 …… 40
戦略⑤　土佐清水の魅力を広める人材の確保・育成 …… 41
戦略⑥　土佐清水ならではの「食」の提供 …… 42
戦略⑦　観光拠点施設の連携促進 …… 43
戦略⑧　広域的な連携の促進 …… 44
テーマ３　－観光の魅力を高める …… 45
戦略⑨　二次交通の継続および拡大 …… 45
戦略⑩　地区の一体感と活性化を育む整備の促進 …… 45
戦略⑪　観光関連施設等の整備促進 …… 46

４章　マスタープランの進め方

4-1　各主体の役割 …… 51
4-2　マスタープランの推進体制 …… 52
4-3　プランの進捗管理 …… 53

参考・引用文献 …… 54
写真提供等協力者 …… 55
マスタープラン策定の体制および経緯等 …… 56

序章

マスタープラン策定の概要

本市観光の発展に向けたマスタープランの意義や位置づけ、プラン策定にあたっての基本方針などを示します。

1 背景と目的

国においては、観光立国の実現を目指して、2007（平成 19）年 1 月に「観光立国推進基本法」が施行され、2008（平成 20）年には観光庁が発足するなど、広域的な連携や新たな観光旅行分野の展開が進められています。さらに、2012（平成 24）年 3 月には、「観光立国推進基本計画」が閣議決定されるなど、国の成長戦略の柱として「観光」を位置づけ、官民を挙げての体制づくりが推進されています。

土佐清水市においても、近年の観光ニーズの多様化に対応しながら、交流人口の拡大および地域経済の活性化を図るため、体験型・滞在型観光への取組や観光と他産業との連携、ジオパークの推進などの観光政策を展開しているところです。一方で、本市への観光客の入込数は 1993（平成 5）年の約 104 万人をピークに、近年は 70 万人前後で推移していますが、1972（昭和 47）年の足摺宇和海国立公園の指定から 40 年余りが経過し、各地で観光施設の老朽化が目立ち、優れた地域資源が十分に活用できているとはいえない状況です。

本市は足摺宇和海国立公園の中心観光地であり、その核となる足摺地域ならびに竜串地域の持続的な発展は本市観光の生命線であるといえます。とりわけ竜串地域では、昨今、観光振興に係る様々なプロジェクトが動き始めており、これらを包括的かつ有機的に結びつけ、活用していくための仕組みづくりが喫緊の課題となっています。

「土佐清水市観光マスタープラン」（以下、マスタープラン）は、優れた観光地として発展してきた本市において、竜串地区の再整備を契機に改めて地域の観光資源を見直し、観光に関わる各主体や関連産業はもとより、各地区が一体となって本市観光振興のビジョンを明らかにしていくことを目的とします。

2 策定方針

マスタープランは、先の背景と目的に鑑み、以下に示す方針をもって策定します。

策定方針 1

関係主体との協働・連携

マスタープランは、土佐清水市行政のみならず、市民、事業者、NPO 等各種団体、教育機関、国、県など多様な主体が、各々の役割を認識しながら、協働・連携をもって進めていきます。

策定方針 2

具体的な実現戦略の提示

マスタープランの実現のためには、実際にプランに基づいてどういったアクションを起こしていくかが重要です。本プランは実効性を高めるためにより具体的な実現戦略を盛り込み、取組の主体を明確にします。

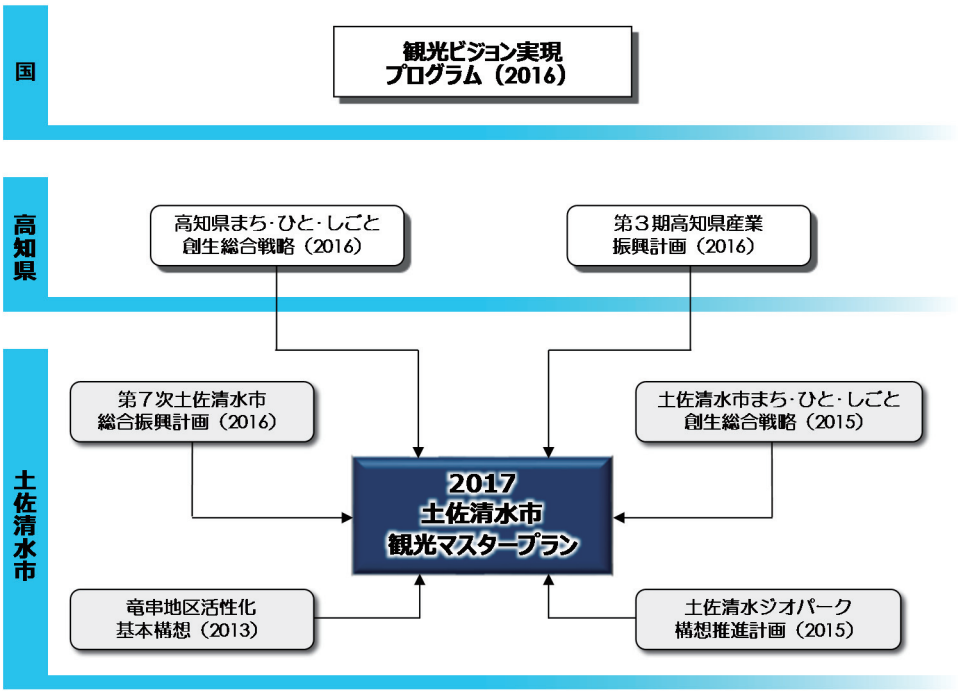
策定方針 3

相乗的効果の発揮

本市観光に大きな影響を与える関連事業や、本市が主体となって進める各種計画との整合を図り、相乗的な効果を発揮できるプランづくりを目指します。

3 マスタープランの位置づけ

マスタープランの策定にあたっては、国ならびに高知県における関連計画の理念を踏まえるとともに、本市の計画である、「総合振興計画」（2016）や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2015）、「土佐清水ジオパーク構想推進計画」（2015）などとの整合性を図りながら進めていくものとします（図序-1）。



図序-１　国・県および本市の主な関連計画とマスタープランの位置づけ

４　マスタープランの期間

マスタープランの期間は、2017～2021 年度の 5 年間とします。なお、プランの進捗状況や社会経済情勢の変化などに応じて柔軟にプラン内容の見直しを行います。

第１章

土佐清水市観光に係る現状と課題

現在の観光環境の変化を踏まえて、土佐清水市の観光資源の概要および観光に係る動向等を整理し、本市観光の課題を明らかにします。

1-1 観光環境の現状

昨今、地域の観光は地域住民が主体となって観光資源を発掘したり、プログラム化したりして市場に情報発信し集客を行うといった取組が盛んになりつつあります。このような地域仕立ての観光は「着地型観光」と呼ばれています。高知県においても、2005（平成 17）年に「高知県観光ビジョン」が策定され、高知県を訪れる人々と地域の人々との心が触れあう交流を拡大するとともに、観光を地域の産業として発展させていくために、これまで以上に地域の人々がわがまち・わがむらの魅力を見つめ直し、自信と誇りの持てる個性豊かな観光地づくりを進めていくことが謳われています。一方、来訪者は個人や小グループによる深い観光へとニーズが変化するとともに、海外、特にアジア圏からの観光客が増えています。この背景には、以下のような社会経済的な要因および需要の変化が挙げられます。

① 消費者の観光ニーズの成熟化

消費者の観光に対するニーズが成熟し、「本物」に対する志向が高まるとともに、地域の生活や文化を学び、体験や交流をじっくりと楽しむといった傾向が強くなっています。観光客は、名所旧跡や風光明媚な景色だけを見て、土産物を買うといったスタイルの観光にはもはや満足せず、顧客ニーズに応じたあらゆる体験や学び、交流のメニューを用意しなければ観光地として成立しなくなってきています。

② 情報化社会の進展

急速なインターネットの進歩および普及によって、観光地から顧客にダイレクトに情報が伝わるようになりました。インターネットは旅行商品の販売にも大きな影響をもたらし、従来の雑誌やテレビなどのメディアや、パンフレットやチラシといった販売ツールに比べ、情報量、即時性、操作性、情報更新の簡易性などで格段に優位に立っています。

③ 交通手段の多様化

マイカーの普及および高速道路網の拡充、新幹線の時間短縮、航空運賃の自由化による低廉化など、観光に欠かすことのできない移動の利便性が格段に向上してきました。そのため、団体旅行運賃のメリットが減少し、旅行者は発地からの移動を含む旅行商品を利用する必要性がほぼなくなったといえます。

④ 外国人観光客の増加

外国人観光客が著しく増加し、地域のきめ細かい対応が求められるようになってきました。外国人観光客の日本観光への動機づけは、一部ショッピングを目的とするものも認められますが、欧米や、近年では台湾からの観光客も日本人のライフスタイルや生活文化への関心が高いといわれています。したがって、日本文化が多く残る地方のコミュニティにおいては、今後外国人観光客への細かい対応が求められるようになってきます。

⑤ 地域の食文化への関心の高まり

旅行形態がこれまでの団体旅行型から家族や友人同士など、少人数化・個人化することに伴い、価値観やライフスタイルの多様化が進んできました。このことによって観光の醍醐味である「食」についてもこだわりを見せる観光客が増えており、地域固有の食材や調理法を楽しみたいという需要が高まってきています。

このような社会経済的な要因および需要の変化を踏まえながら、次項以降、本市観光に係る現状と課題を整理していきます。

1-2 土佐清水市の観光資源

本市は、四国西南部の勇壮な海岸景観と、黒潮の影響を受けた温暖多雨な気候に育まれた照葉樹林や造礁サンゴが成育する海中景観が特徴的な地域です。主要な観光地としては「足摺地区」と「竜串地区」があり、それぞれにおいて自然・歴史文化的価値の高い資源が存在します。

ここでは、本市の全体像を示したうえで、両地区の資源の概要を整理します。

土佐清水市の観光資源マップ① 市域

●大岐の浜

真っ白な砂浜と緑林が 1.6km にわたって緩やかな曲線を描く美しい海岸。その白砂は、遠く足摺岬の花崗岩が侵食・運搬されたものです。足摺宇和海国立公園の東玄関たる序景にふさわしく、昔から絶好のキャンプ地です。最近はサーフポイントとしての人気も高く、県内外から多くのサーファーが訪れます。絶滅危惧種のアカウミガメが上陸し、産卵に利用する砂浜でもあります。

●唐人駄場遺跡・巨石群

唐人駄場園地のすぐそばに、唐人石と呼ばれる巨石群があります。石のかたちは様々。凹面がある石などがあり、人の手が加わっているであろうと想像されますが、ギザのピラミッドと同様に、巨石の移動方法や研削の技術は謎に包まれています。

●叶崎

国道 321 号を竜串から大月町へ向かう途中に、切り立った断崖の上に白亜の灯台が見えます。建設されたのは1911（明治44）年。光源は様々な改修を受けましたが、外観は当初の姿を留め、今なお現役の貴重な灯台です。「叶崎海岸を見ずして土佐風景を見たとはいえない」と俳人碧梧桐が表した西の足摺岬といわれる叶崎海岸には切り立った断崖が連なり、見事な海食洞窟、岩礁を青い太平洋にちりばめています。

▲中浜万次郎生家（復元）

土佐清水市中浜は、ジョン万次郎が 14 歳まで暮らした場所。木造平屋、茅葺屋根の生家は、現存する生家の写真をもとに、市内の有志の働きによって集められた募金などで復元されました。

▲ジョン万次郎資料館・万次郎少年群像

2006（平成 18）年 4 月に足摺岬地区より、養老地区の海の駅あしずり港内に移転オープンしました。資料館はジョン万次郎の生涯を再現した国際交流の館となっており、模型やパネルで万次郎の生涯がわかりやすく展示されています。また、あしずり港広場には万次郎少年群像が 1996（平成 8）年 2 月に設置されています。

■マンボウスイム・ジンベエスイム

「マンボウスイム」は、以布利港内のいけす（広さ 10m×10m・深さ 5m）で飼育されているマンボウとシュノーケリングで一緒に泳げる場所です。マンボウはとてもマイペースで、人がいけすに入ってきても知らん顔したり、餌をもらえると思って近づいてきたりします。

■ホエールウォッチング＆イルカウォッチング

足摺岬周辺の海域では、ニタリクジラなどを通年で見ることができます。山の豊かな栄養を含んだ水が四万十川などを通じて土佐湾に流れ込み、小魚が豊富になるこの海域にクジラが棲みついているといわれます。また、下ノ加江地区および窪津地区においてもそれぞれホエールウォッチングを行っています。クジラがよく見られる時期は 4 月～10 月です。

▲足摺黒潮市場

漁港を一望できるレストランでは、土佐清水市自慢の清水さばを使った料理をはじめ、新鮮な漁師料理を楽しめます。港で獲れたばかりの鮮魚や土佐清水市の土産物も販売されています。

▲道の駅めじかの里

四国の最南端にある道の駅「めじかの里」。土佐清水市でとれた新鮮な魚や野菜が販売されています。お隣の工場で生産される土佐清水市の特産品「姫かつお」など、加工品も多数揃っています。

土佐清水市の観光資源マップ② 足摺地区

●足摺岬展望台

足摺岬自然遊歩道の突き当たりにある展望台です。展望台では 270°の視界が広がり太平洋や周囲の岩壁を一望でき、真っ青な海を背景に白亜の灯台が浮かび上がった姿を見ることができます。

●足摺岬園地（足摺椿まつり）

延長 2km にも及ぶ自然遊歩道（椿のトンネル）は、椿が覆い茂り、まるで椿のトンネルをくぐっているかのようです。木漏れ日や優しい風を感じながら、ゆったりとした時間を感じることができます。

●足摺岬・足摺岬灯台

四国最南端の岬です。その西の臼碆は、黒潮本流が直接ぶつかる全国でも唯一の場所。この岬に建つ白亜の灯台は高さ 18m で光度 46 万カンデラ、光達距離は 38km に及び、我が国でも最大級の灯台の一つです。1914（大正 3）年に点灯されて以来、海の安全を見守り続けています。

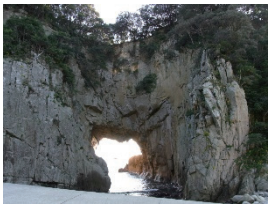
●足摺七不思議

足摺岬には、弘法大師が嵯峨天皇の命により建立した四国八十八カ所第 38 番札所「金剛福寺」があり、それにまつわる数々の「不思議」が遊歩道沿いに点在しています。それを総じて「足摺七不思議」と呼ばれています。

※七不思議とは、不思議が七つあるという意味ではなく、多くの不思議があるという意味です。

●足摺亜熱帯自然植物園

年間を通じて温暖な気候の足摺は、珍しい植物の宝庫です。1974（昭和49）年7月に開園した足摺亜熱帯自然植物園は、国有林内の約 1 万 m^2 もの敷地を開放した植物園です。亜熱帯・温暖帯の花木やビロー、ヤシ、シダ類がジャングルのように生い茂っており、遊歩道や休憩所なども整備されています。

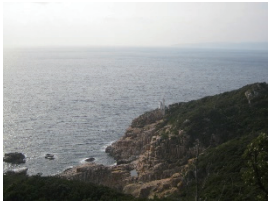


●白山洞門

足摺岬は海食による洞窟、洞門に恵まれています。白山洞門は高さ 16m、幅 17m 最も大きいものです。花崗岩海食洞門では日本一の規模といわれ、今なお基底を波に洗われています。海岸に続く遊歩道もあって容易に近づける場所なので、研究にも観光にも恵まれた洞門です。高知県の天然記念物に指定されています。

●鵜の岬展望台

足摺岬から西へ約 5 km、日本本土で最初に黒潮が接岸することで知られる臼碆にある三つの展望台の一つです。付近の海面では、渦を巻きながら移動する潮目が見られます。絶え間なく打ち寄せる荒波がつくり出す崖や洞窟の変化にとんだ地形、濃紺の海に映える花崗岩の岩場など、海と陸の雄大な景色を体感することができます。



●臼碆

花崗岩の大絶壁の真下にぽっかり浮かんでいる海上 2m、幅 3m の岩が臼のかたちに似ており、そこを中心として黒潮が渦巻くかたちが臼に似ていることから「ウスバエ」と名付けられました。日本列島で黒潮が最初に接岸する場所で、黒潮の流れを見られる海岸はここだけと言われています。磯釣りのメッカとしても全国に知られ、映画「釣りバカ日誌」の撮影現場にも使われました。

▲金剛福寺（四国霊場第 38 番札所）

四国霊場八十八カ所巡りの第 38 番札所 金剛福寺は、修行の道場といわれる高知県の中でも、札所間の距離が最も長い場所にあります。822（弘仁 13）年、嵯峨天皇の勅願によって、弘法大師が三面千手観音を本尊として 823（弘仁 14）年にできたものです。歴代天皇の勅願所で皇室や藩主の尊崇あつく、境内には多宝塔、十三石塔、逆修の塔など多くの文化財が伝えられています。

▲ジョン万次郎銅像

中の浜地区で漁師の子として生まれた“ジョン万次郎”こと中浜万次郎。その銅像が足摺岬の先端に立っています。万次郎は、150 余年前、日本人として初めてアメリカに渡り、測量や航海術などを学んだ後、鎖国時代の日本に帰国し、日本の民主化や国際交流に多大な功績を遺しました。坂本龍馬の開眼も万次郎の体験によることは明らかで、板垣退助、中江兆民、岩崎弥太郎などにも多大な影響を与えました。

■足摺クルーズ

四国最南端の地として知られる足摺岬（高知県土佐清水市）。
足摺岬灯台や、黒潮が日本で最初に接岸する臼碆などを、船でクルージングすることで、陸の上からは見ることのできない、迫力ある風景を体感できます。

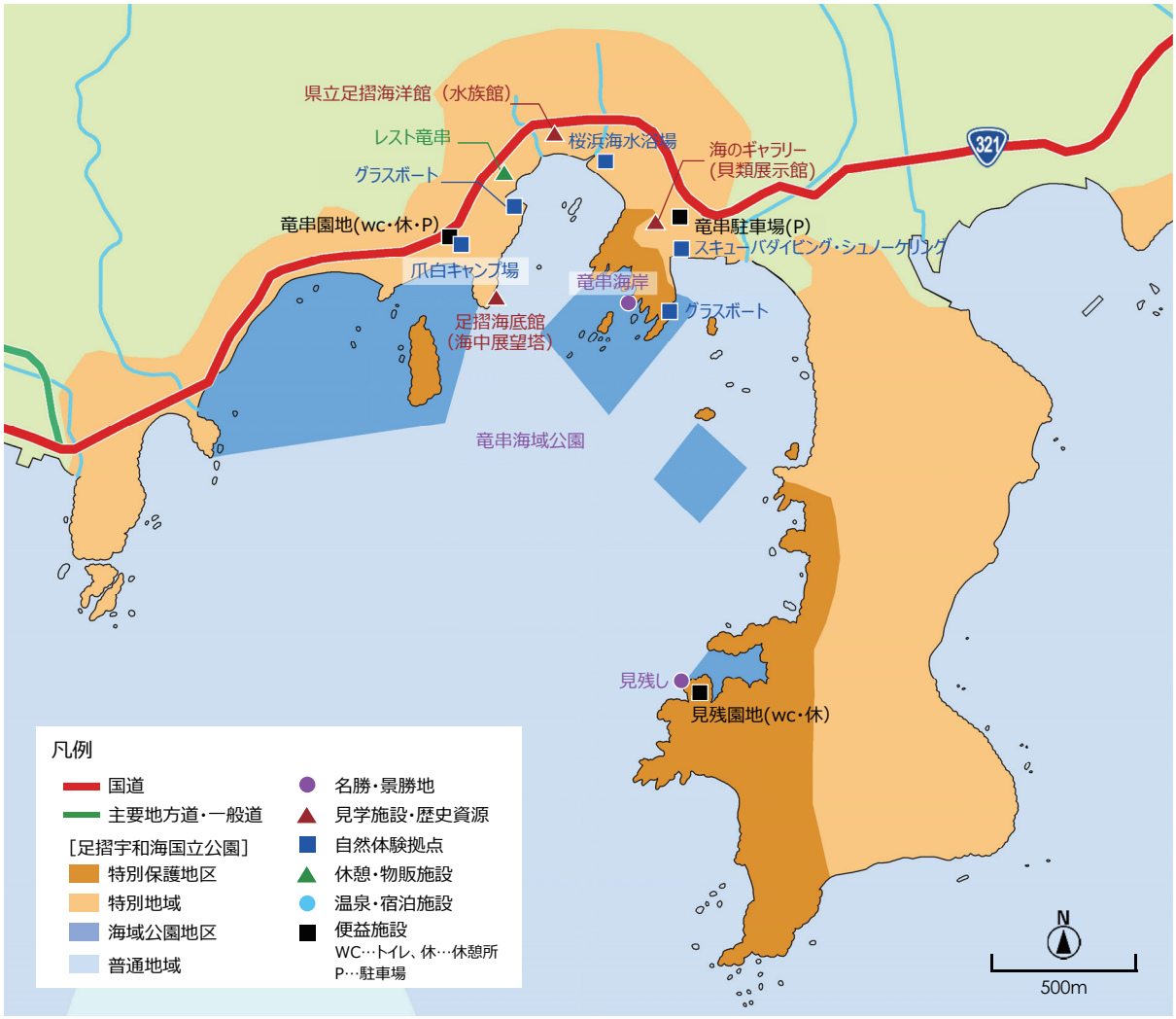
●万次郎足湯

2009（平成 21）年 4 月にオープンした足摺岬白山洞門を展望できる足湯です。

●あしずり温泉郷

足摺岬からほど近い「あしずり温泉郷」は、雄大な太平洋を一望できる温泉地です。岬の岩壁にそびえ立つ温泉宿も多く、野趣あふれる温泉と絶景を見ながらの入浴が楽しめます。

土佐清水市の観光資源マップ③ 竜串地区

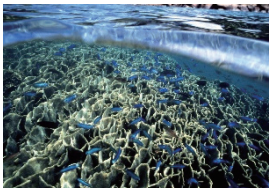


●見残し

「見残し」という地名は、昔、弘法大師がこの地を見残したことに由来していると言われます。弘法大師が見残したのもうなずける難所ですが、グラスボートで渡ることができます。遊歩道があり、人魚御殿や愛情の岩など、見逃せない迫力の風景です。竜串海岸と同じように、様々な奇岩・奇勝があります。

●竜串海岸

海のギャラリーから桜浜海水浴場に続く、奇岩・奇勝の壮大な風景。竜串には激しい風や波の侵食作用によって「蜂の巣構造」と呼ばれる特徴的な岩肌をはじめ、大竹・小竹・らんま石・かぶと石・鯉の滝登りなどの名称で呼ばれる奇岩・奇勝が点在することから地学教材の宝庫と言われ、圧倒的な自然の造形美を堪能することができます。



●竜串海域公園

日本で最初に海中公園に指定された竜串の海中公園（現 海域公園）は、レジャーダイビングのスポットとしてビギナーから楽しめます。台風や夏場の時化以外は潜ることができるため、基本的にシーズンオフはありません。海中にはシコロサンゴの群落地があり、日本一の規模とされています。グラスボートでも美しい海中の様子を観察することができます。

▲海のギャラリー（貝類展示館）

日本でも珍しい貝類展示館。日本の三宝と称されるテラマチダカラ、オトメダカラ、ニッポンダカラをはじめとして、大きいもので 1m 以上、小さなもので 1mm 以下のものまで約 3,000 種 5 万点の貝が展示されています。

▲県立足摺海洋館（水族館）

「土佐の海と黒潮の魚たち」をテーマに、足摺半島周辺に棲む魚類を中心に、約 200 種、3000 匹を飼育展示しています。圧巻は直径 9m、高さ 6m の海洋水槽で、観る者を圧倒します。スズキやカンパチ、ロウニンアジなどの大型魚をはじめ、約 50 種の魚たちが泳ぎ回っています。

▲足摺海底館（海中展望塔）

竜串海岸の西側、海の上にすっと立つ白と赤の建物。全国に 6 つある海中展望塔の一つで、中四国では唯一の施設です。コンセプトは「普段着のままで、自然の海を散歩できる」。建物に入り、螺旋階段を降りた部屋には丸い小窓が開いていて、海中の様子を見学できます。サンゴ礁が連なるなかを色とりどりの熱帯魚が泳ぐさまは、さながら竜宮城のようです。

■スキューバダイビング・シュノーケリング

温暖な黒潮の影響を受け、イシサンゴ類をはじめとする多くの生きものが生息する竜串湾。その海中景観の美しさには定評があります。竜串地区では、プロのインストラクターによる豊富なダイビングコースが用意され、初心者から上級者まで楽しめるようになっています。また、手軽に楽しめるシュノーケリングも人気のメニューです。

■グラスボート

船底がガラス張りになった「グラスボート」（海中展望船）からは、竜串湾内の様々なサンゴやその周りを泳ぐ色鮮やかな熱帯魚の群れを見ることができます。

■桜浜海水浴場

市内唯一の海水浴場であり、昔は桜貝という小さな貝が浜を覆い隠し、浜が桜色に染まっていたことから名付けられたといわれています。現在は桜色ではありませんが、白砂の美しい砂浜は、夏場にウミガメが産卵にくることもあります。

■爪白キャンプ場（爪白園地）

竜串海域公園に隣接し、竜串・見残し、足摺海洋館や足摺海底館などにも近く、サイトには芝生が広がる気持ちのよいキャンプ場です。

▲レスト竜串

国道 321 号沿いにあり、足摺海底館の入口に位置する物産販売施設です。

1-2-1 足摺地区の観光資源

足摺地区は、270°の視界が広がり紺碧の海に突き出た「足摺岬」を筆頭に、自然が織りなすダイナミックな景観が楽しめる場所となっています。荒々しく打ち寄せる太平洋の波は、大きな岩山に長い年月をかけて穴を開けた「白山洞門」や、見事な花崗岩の断崖となった「臼碆」などをつくりあげました。また、三方を海に囲まれ、街灯や民家の灯りが少ないことから四季を通して満天の星空を眺めることができ、「スターウォッチング」に最適な場所となっています。足摺半島の先端近くの海岸段丘の一角には、縄文時代早期（紀元前 5000 年頃）から弥生時代にかけての石器や土器片が数多く出土し、一帯にはストーンサークルと思しき石の配列や高さ 6～7m にも及ぶ巨石が林立する「唐人駄場遺跡」があります。さらに、足摺岬周辺には亜熱帯の植物が生い茂り、とりわけ「松尾神社」境内にある「アコウ」の大樹*は樹齢 300 年を誇り、この地区の貴重な観光資源となっています。

足摺地区には、嵯峨天皇の勅願により弘法大師が開基したといわれる、第 38 番札所「金剛福寺」があり、1 年を通して多くの遍路や参拝客が訪れます。また、金剛福寺建立の頃より足摺岬では温泉が出ていたという伝説が残り、今でも岬周辺 7 カ所の宿泊施設において「あしずり温泉郷」として観光客を迎えています。

1-2-2 竜串地区の観光資源

竜串地区は、本市市街地から約 8km 西方にあり、造礁サンゴや南方系の魚類などが生息する、1970（昭和 45）年に我が国初の海中公園地区（現 海域公園地区）に指定された場所です。

竜串海岸は、1500～2000 万年前の砂岩からなる侵食台地で奇岩の景勝地として有名で、丸みを帯びた岩がまっすぐに伸びる「大竹小竹」や「蛙の千匹連れ」、「しぼり幕」などの名所が数多くあります。また、千尋岬西側の先端近くにある海岸一帯は、竜串周辺を訪れた弘法大師がこの景勝地を見落としていったことから「見残し」の名がついたといわれている名所です。

竜串地区には、このような自然資源を活かすべく、足摺半島周辺に生息する魚類、約 200 種を飼育展示する「足摺海洋館」や、海中展望塔で海の中を見ることのできる「足摺海底館」、約 3,000 種 5 万点の貝類を展示する「海のギャラリー」などの施設があります。さらにこの地区では、冬場でも海水温が 16～18℃ と高いことから、年間を通じてダイビングが楽しめるなど、体験観光が盛んな場所でもあります。

---

* 1921（大正 10）年に国の天然記念物に指定されている。

1-3 土佐清水市の観光の動向

本市の観光客の入込数や施設の利用状況、観光における消費額などについて、データを中心に整理します。

1-3-1 観光客の入込

本市は、海岸線のほとんどが「足摺宇和海国立公園」に指定されており、足摺・竜串地区を中心とした雄大な自然景観と豊かな自然環境を有し、優れた観光地として発展してきました。本市への観光客の入込数は、1973（昭和 48）年に約 96 万人を数えた後、1980 年代は 80 万人前後で推移していましたが、1988（昭和 63）年の瀬戸大橋開通ならびに 1992（平成 4）年の高速道本州直結を契機に増加傾向に転じ、1993（平成 5）年にはピークとなる約 104 万人が本市を訪れています。しかし、その後は微増微減を繰り返しながら徐々に減少傾向となり、近年は 70 万人前後で推移しています（図 1-1）。

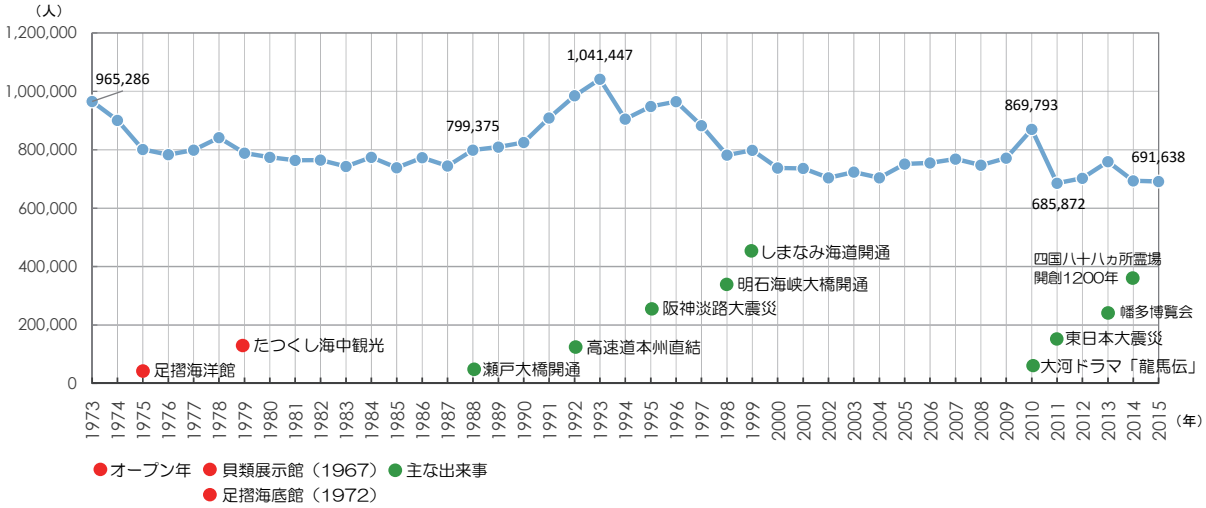


図 1－1　土佐清水市の観光客の推移
資料：土佐清水市

近年の月別の観光客入込数を見てみると（図 1-2）、観光客が多いのは夏休みの時期や暖かくなる 3 月、5 月の大型連休の時期です。とりわけ 8 月は突出して多く、例年 11～12 万人あまりの観光客が訪れ、本市が夏場に強い観光地であることを裏付けています。一方、12 月、2 月の冬場は少なくなっており、夏場のさらなる誘客と冬場の観光メニューの充実が課題であると考えられます。

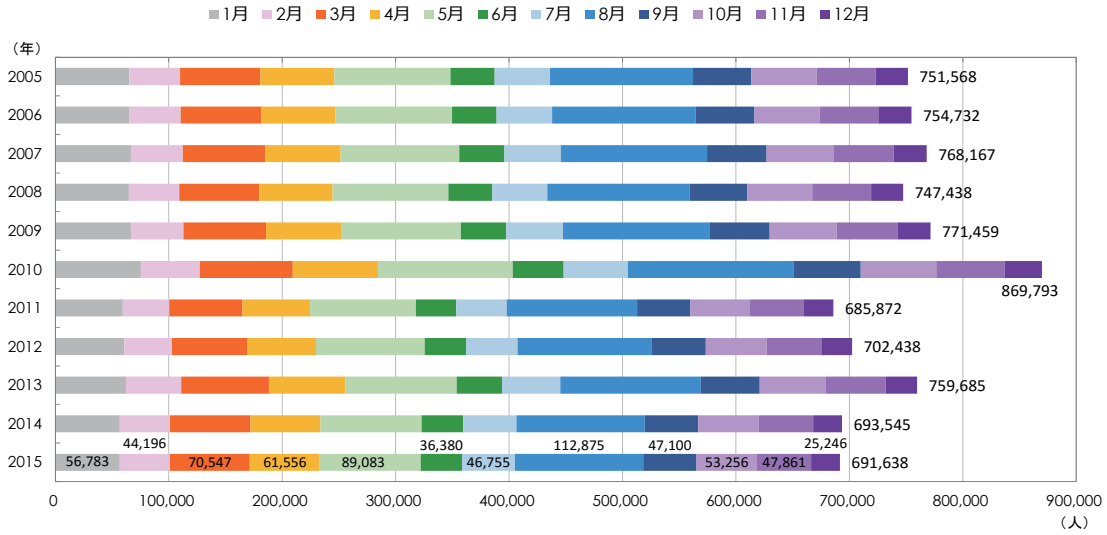


図１－２　月別観光客の推移
資料：土佐清水市

また、近年のアジア圏における経済成長や、これを背景とした旅行市場の急速な拡大を背景に、外国人観光客の宿泊者数*については、2013（平成 25）年の 1,934 人から僅か 2 年で 4,147 人と倍以上の増加となっています（図 1-3）。外国人観光客は今後も増加すると予測され、その受入体制の拡充が欠かせない状況になっています。

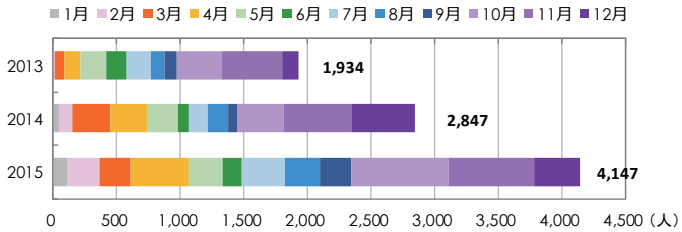


図１－３　外国人観光客宿泊数（あしずり温泉協議会施設のみ）
資料：土佐清水市

さらに昨今、漁業体験や環境学習プログラムなど、地方における個性ある教育旅行も盛んに実施されており、本市においても以前より教育旅行の受入れを積極的に行ってきました。受入校数は、1985（昭和 60）年から 2005（平成 17）年に至るまでは、増減はあるものの平均 10 校ほどの受入れがありましたが、2006（平成 18）年以降は、平均 4 校程度となっており（図 1-4）、地域間の競争が激化していることが想像されます。教育旅行は近年、民泊の形態をとる学校も増加していますが、本市においては一部地域での実施に止まっており、民泊を含めた教育旅行の受入れについての検討も重要な課題となっています。

* あしずり温泉協議会施設の宿泊者数。なお、市調べでは 2012（平成 24）年の市全体の宿泊者数は 947 人となっている。

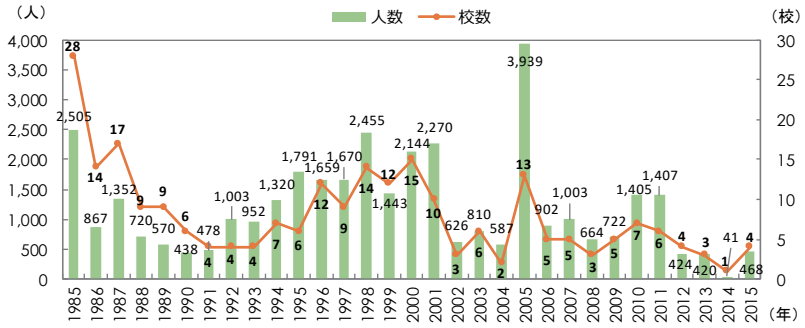


図１－４　教育旅行客数と学校数

資料：土佐清水市

1-3-2 施設利用状況

本市の主要な観光資源である各種施設においては、1980（昭和 55）年頃から徐々に利用者数は減少しはじめ、1991（平成 3）から 1993（平成 5）年に一旦盛り返したものの、その後は一貫して右肩下がりの状況が続いています。（図 1-5）。現状、一部施設においては比較的健闘しているものの、2015（平成 27）年の施設利用者は、1978（昭和 53）年、2000（平成 12）年のそれぞれ△66.3%、△35.5%となっています。

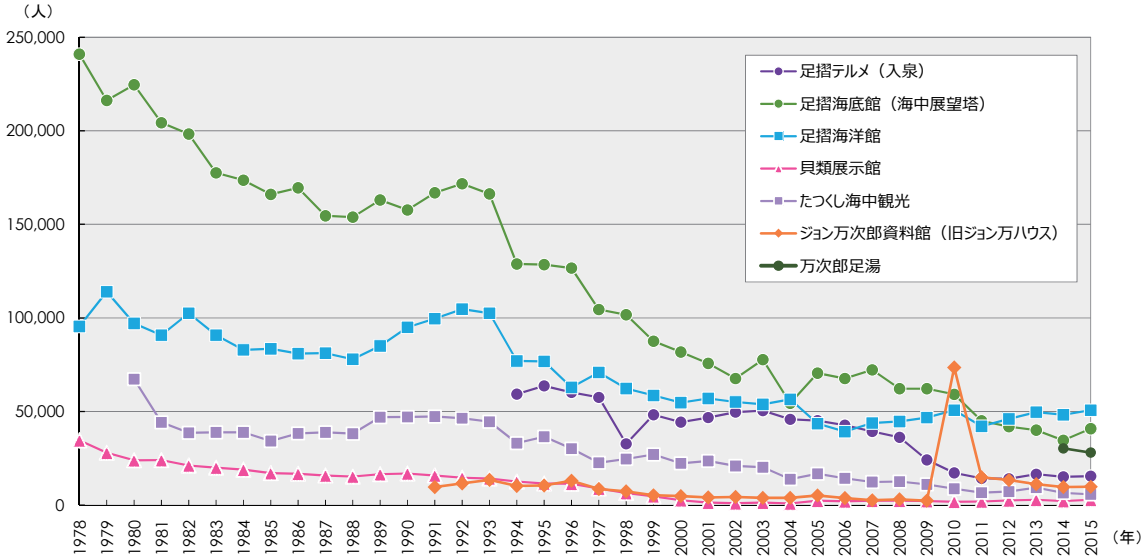


図１－５　主要観光施設利用者数の推移

資料：土佐清水市

宿泊利用者数については、2005（平成 17）年に約 27 万人を数えましたが、2015 年には約 17 万人と約 10 万人（△35.7%）減少しており（図 1-6）、本市を訪れても宿泊は別という旅行スタイルになりつつあることが懸念されます。このことから、観光客に宿泊を促すための魅力あるメニューの拡充が課題となっています。

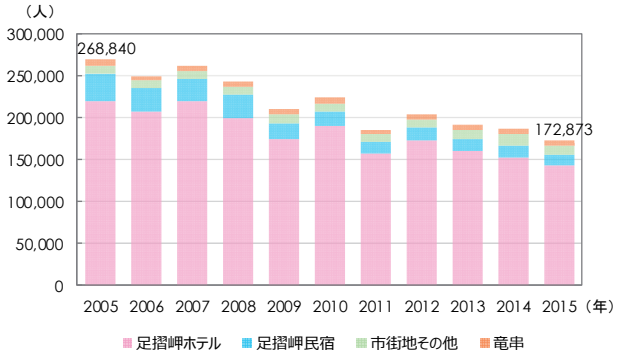


図１－６　宿泊施設利用状況
資料：土佐清水市

1-3-3 観光における消費状況

県外観光客一人あたりの消費額（高知県内）を示します（図 1-7）。この結果は当該旅行における消費額を示したものであり、本市で全て消費したというものではありませんが、2010（平成 22）年以降は足摺岬において調査を行っているため、本市での消費も少なからず含まれているものと判断されます。

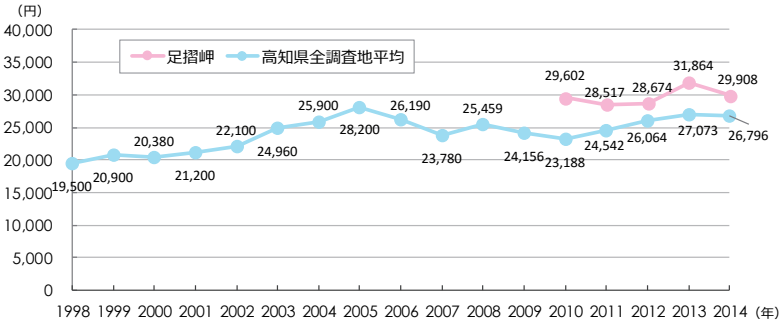


図１－７　県外観光客一人当たりの県内消費額
資料：高知県『県外観光客入込・動態調査報告書』

高知県全地点*の消費額は、増減を繰り返しながらも微増傾向にあり、平均は約 2 万 4,000 円程度となっています。一方、足摺岬での調査結果では、5 カ年平均で約 3 万円となっており、明らかに多い結果となっています。費目別に見てみると（図 1-8）、県内全地点では交通費や飲食費、宿泊費が増加する傾向にあります。僅か 2 カ年のデータではあるものの、足摺岬では明らかに宿泊費と交通費が多くかかっています。

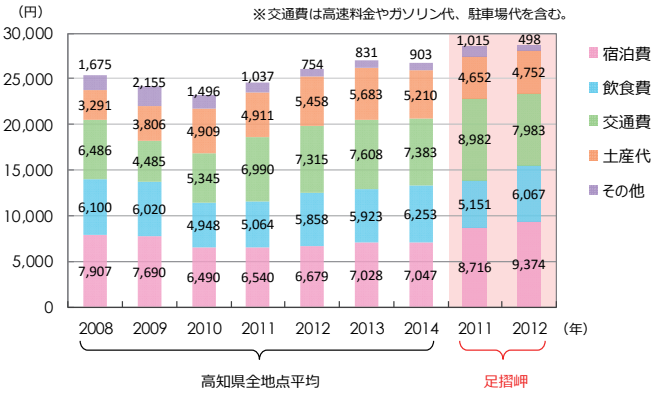


図１－８　県外観光客一人当たりの県内費目別消費額
資料：高知県『県外観光客入込・動態調査報告書』

* 調査地点数は、1998（平成 10）～2002（平成 14）年までは県内 3 カ所、2003（平成 15）年からは 8～10 カ所。

1-3-4 観光客の期待度と満足度

高知県が実施した県内の観光地を訪れた観光客への満足度調査の結果（図 1-9）および本市観光地の期待度と満足度調査の結果を示します*。

県内観光地の満足度については、4 項目ともに県全体と西部に大きな差異は見られませんが、「観光施設」において西部の満足度がやや高い結果になっています。また、「道の走行のしやすさ」では、西部の満足度が若干低いという結果になっています。

これらの項目は、本市の観光振興を図っていく上での重要なファクターとなります。本市への交通アクセスはこれまでも大きな課題でしたが、道路事情は徐々に改善されてきており、今後は老朽化施設への対応やサイン、トイレなどの整備も考慮していく必要があります。また、「食」に関してはここでは違いは見られなかったものの、本市においてはこれの充実が大きな課題と考えられ、積極的に取組を展開していく必要があります。

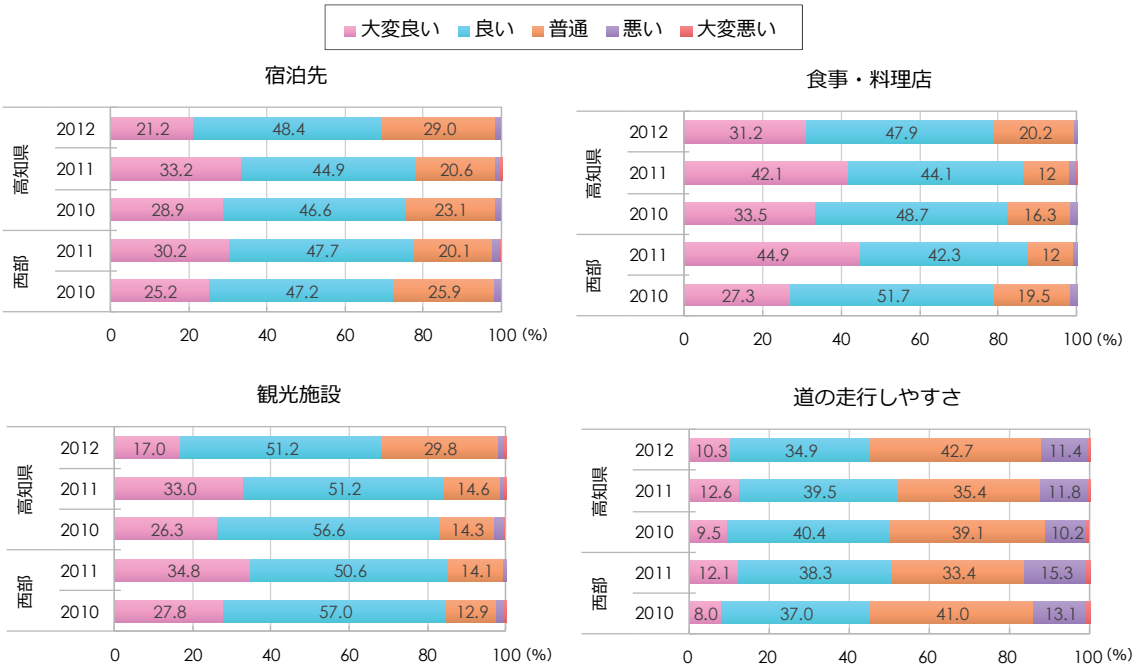


図 1－9　観光客満足度調査
資料：『県外観光客入込・動態調査報告書』（高知県）

一方、本市観光地への期待度と満足度を見てみると（図 1-10）、期待度が高かったのは、「足摺岬・足摺岬展望台」で約 60%、次いで「足摺海底館」、「竜串海岸」などであり、満足度が高かった場所もほぼ同様の結果でした。一方、期待値はそれほど高くなかったものの満足度が比較的高かった観光地としては、「サンゴのかけら浜」、「天狗の鼻」、「唐人駄場遺跡」などが挙げられています。これらの有効な活用策の検討も必須事項と考えられます。

* 「県外観光客入込・動態調査報告書」（高知県）。調査は四季別に年 4 回、各調査地とも 1 季節 50 人に対し、直接聞き取り調査を実施。西部は、椿原・維新の道社中、四万十川観光開発遊覧船乗場、足摺岬の値を抜粋。

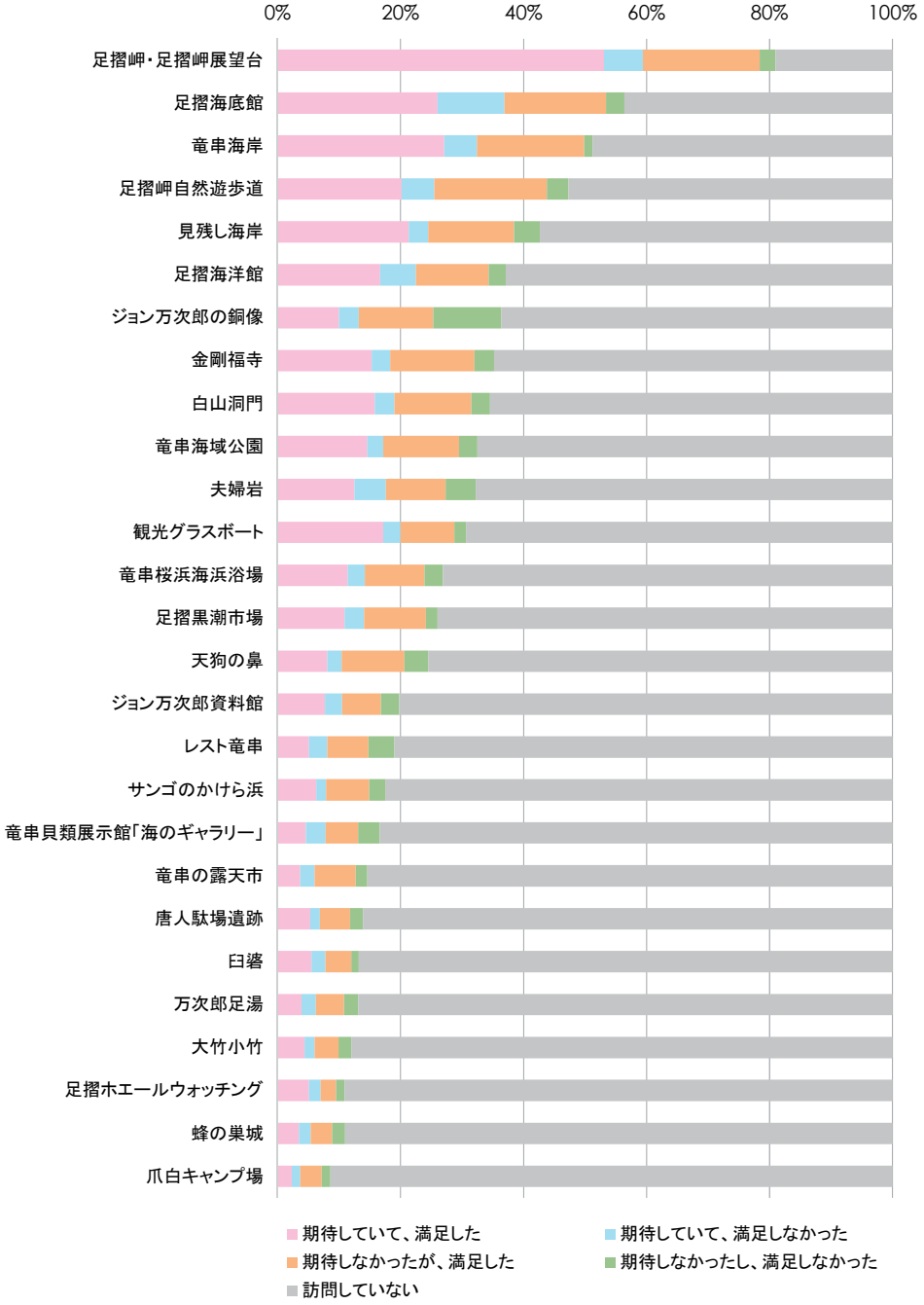


図１-10　本市観光スポットの期待度と満足度

資料：リクルート（2010）

1-4 交通体系

本市観光において重要な要素となる交通体系について、移動時間や公共交通、二次交通の概況を整理します。

1-4-1 移動にかかる時間距離とアクセス

本市観光において、移動および道路事情は古くより分かちがたい問題といえます。高知県の調査*による来訪者の声では、交通アクセスの悪さが指摘され、また、特に足摺岬周辺の道の狭さや駐車場の不足の声が多く聞かれています。

本市観光における交通の動脈は、高知市と愛媛県松山市を結ぶ国道 56 号に接続する国道 321 号です。四国内の県庁所在地からの時間距離は、東は高知市から本市まで約 3 時間、西は松山市から約 3 時間 30 分となっています。大都市からの移動は、大阪－高知間が約 4 時間、本市まで足を伸ばすとなると移動だけで約 7 時間を超える状況です（図 1-11）。

しかしながら、高知自動車道は 2012（平成 24）年に四万十中央 IC（四万十町平串）まで延伸され、現在においても「国道 56 号 片坂バイパス・窪川佐賀道路」が建設中で、完成すれば佐賀 IC（仮称；黒潮町佐賀）まで延伸されます。2018 年度には片坂バイパス（L=6.1km）が開通予定となっており、近い将来高知市内から本市までの所要時間は格段に短縮されることとなります。また、市内においても 2008（平成 20）年には「以布利トンネル」が開通、さらには 2016（平成 28）年 3 月に足摺地域において「松尾トンネル」が開通し、市街地から足摺岬への所要時間が 10 分程度短縮されるなど、以前に比較すれば交通の便は格段に向上したといえます。

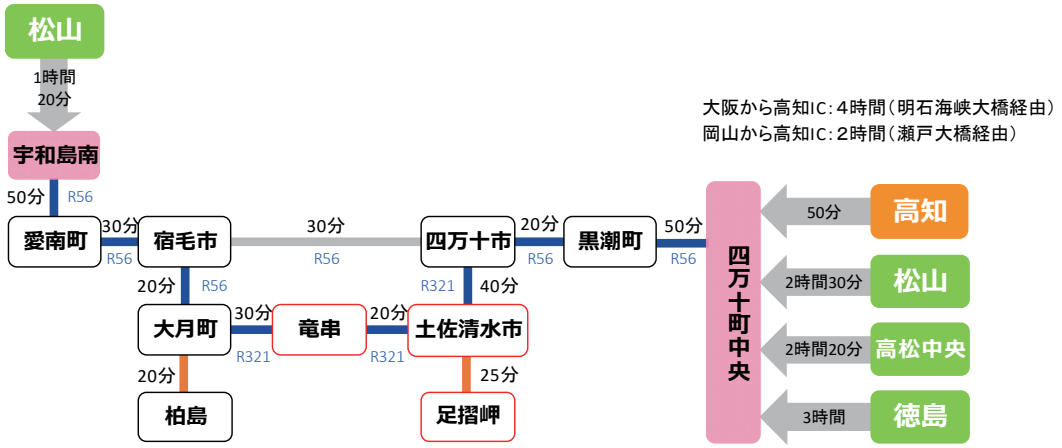


図 1-11　本市への移動にかかる時間距離

* 「県外観光客入込・動態調査報告書」（高知県）。

1-4-2 公共交通

公共交通については、大都市から高知市までは空路・鉄道・バスと手段は多様である一方、高知市から本市へのアクセスについては鉄道とバス路線に限られます（表 1-1）。鉄道は、高知－窪川間は JR、窪川－中村・宿毛間は土佐くろしお鉄道によって運行されています。バスは、高知西南交通によって運行されており、国道 321 号沿いの本市に乗り入れています。

表１－１　公共交通機関による本市へのアクセス

起点	終点	交通手段	所用時間	経路	便数（1日片道）
東京	高知	飛行機	約1時間20分	東京（羽田）空港～高知龍馬空港	10便（JAL5便、ANA5便）
大阪	高知	飛行機	約40分	大阪（伊丹）空港～高知龍馬空港	6便（ANA）
		列車	約3時間40分	新大阪駅～岡山駅（乗換）～高知駅	新幹線＋特急14便（JR）
		高速バス	約5時間10分	・大阪駅～高知駅 ・大阪梅田～高知駅	・JR四国バス14便 ・阪急バスとさでん交通共同運行10便
岡山	高知	列車	約2時間40分	岡山駅～高知駅	JR特急14便
		高速バス	約2時間20分	岡山駅～高知駅	JR四国バス他4社共同運行9便
高知	中村	列車	約1時間40分	高知駅～中村駅	JR特急9便
高知	土佐清水	高速バス	約3時間10分	高知駅～土佐清水市街（プラザパル前）	高知西南交通バス1便
中村	土佐清水	路線バス	約1時間	中村駅～土佐清水市街（プラザパル前）	高知西南交通バス7便
土佐清水	竜串	路線バス	21分	土佐清水市街（プラザパル前）～竜串（海底館前）	高知西南交通バス6便
土佐清水	足摺岬	路線バス	足摺半島 西回り41分 東回り32分	土佐清水市街（プラザパル前）～足摺岬	高知西南交通バス15便

注）便数については、JR は平成 28 年 3 月 26 日のダイヤ改正後の時刻表を参照した。それ以外の交通機関については、各社 HP に掲載されている最新の時刻表によった。また、平日を想定した場合の便数であり、土日祝は減便されることもある。

1-4-3 二次交通

本市において、二次交通は重要な位置づけにあり、観光の生命線ともいえます。とりわけ、約 10 年前から年間約 70 日運行している周遊バス「しまんと・あしずり号」は本市観光に大きな影響を与えうるものと考えられます。「しまんと・あしずり号」は、現状、3～5 月、7～9 月の連休および夏休みを中心に運行されています（図 1-12）。運行期間はその年ごとに

決められますが、2017 年 3 月から 2 年間開催される「志国高知 幕末維新博」の期間中は、運行日数の増加が見込まれています。しかし、それ以降の運行は不透明であり、この存続に対する働きかけは本市観光にとって大きな課題であるといえます。

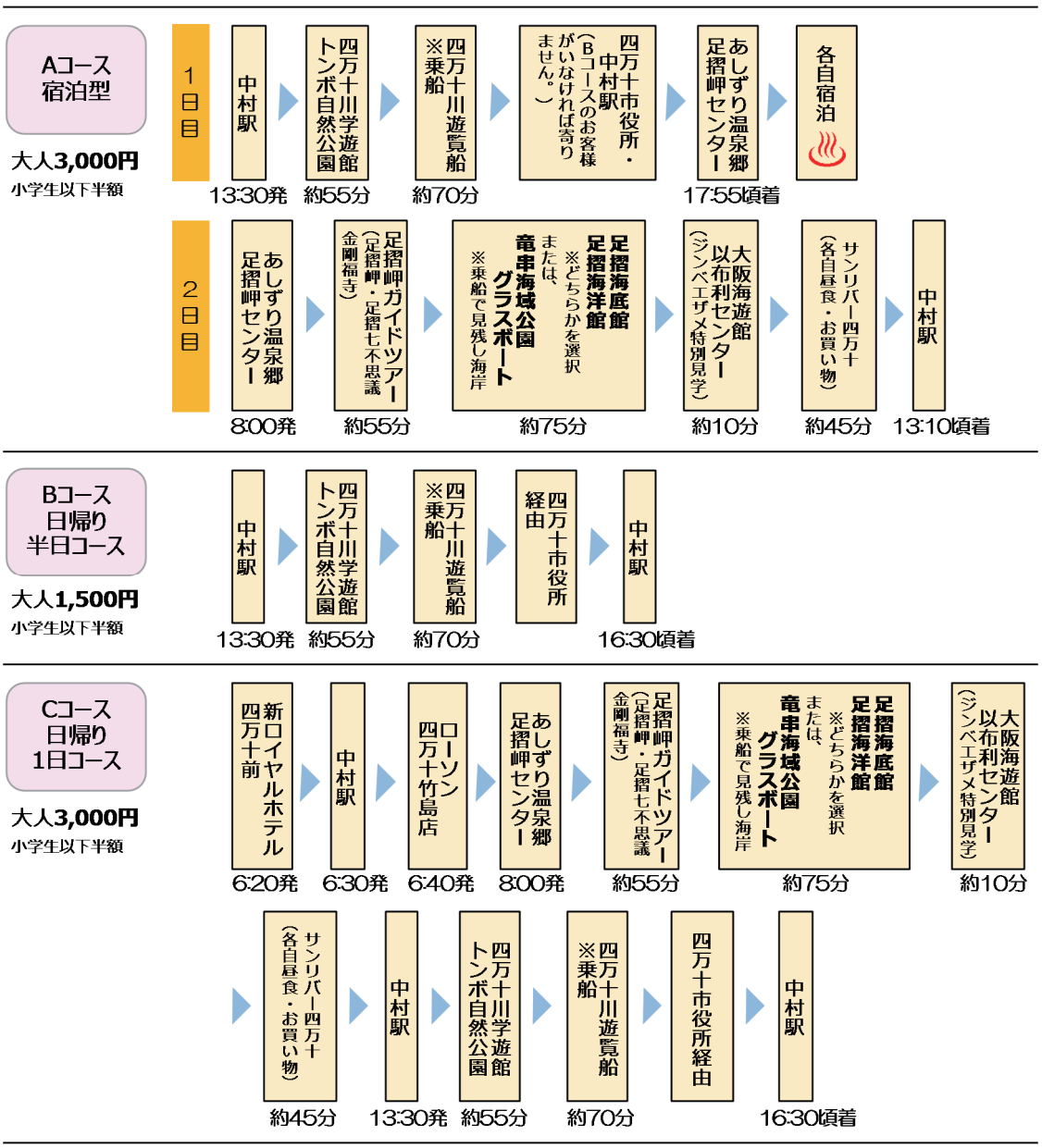


図 1-12　しまんと・あしずり号運行ルート

資料：土佐清水市観光協会 HP をもとに作成

注 1）コース内各施設での入場料・乗船料・食事代、あしずり温泉郷の宿泊代金は含んでいない。

注 2）ここで示したルートは、2016（平成 28）年のものであり、2017 年以降は大幅に変更されることがある。

1-5 観光に係る活動団体

観光振興を図っていくためには、本市受入側の体制構築が重要となります。現状において、観光に係る活動を行っている団体を整理します（表 1-2）。

本市には観光に係る活動として、様々な情報発信や体験等ツアー、教育旅行等の受入れを行っている団体があります。これらは来訪者それぞれのニーズに応えたメニューや体験、食などを提供するものです。ここでは 8 つの団体を挙げていますが、観光振興に対して積極的に活動している団体としては、ボランティアや NPO 等の取組によるところも大きいものと考えられます。

しかし、多くの団体では昨今、高齢化などの要因から人材不足に悩まされており、ボランティアの数も減少してきています。今後、増加する外国人観光客への対応や、より深く本市の魅力を知りたいという来訪者に対しては、専門性の高い人材の育成とともに、市民がもっと自分たちの暮らしている地域に誇りを持ち、おもてなしの心を育むような取組が大切となります。将来的にジオパークの認定を目指す本市においては、このような団体間の協力・連携を促進し、観光まちづくりを促進させる人材の確保・育成は大きな課題といえるでしょう。

表１－２　本市における主な観光活動団体の概要

団体名	取組概要	発足年	観光に関する取組		
			情報発信	団体受入	体験・ツアー等実施
一般社団法人 土佐清水市観光協会	土佐清水市内の観光産業の振興を目的とし、イベント企画や情報発信等を行っている。	S50 H15 法人化	○	○	○
大阪海遊館 海洋生物研究所 以布利センター	大阪にある水族館「海遊館」の展示生物の収集・飼育と周辺海域の調査・研究を目的とした施設。地域振興を目的とした第 2 水槽の一般公開等を行っている。	H9	○	○	－
一般社団法人 あしずり温泉協議会	足摺で採掘された温泉を使った宿泊施設 7 軒が中心となり、観光客誘致に取組んでいる。スターウォッチングや早朝ウォークなどの体験プログラムを実施している。	H23	○	○	○
株式会社 高知県観光開発公社	竜串海域公園内の足摺海底館（海中展望塔）を運営する。	S45	○	○	－
特定非営利活動法人 NPO 竜串観光振興会	竜串地区の観光事業・環境保全・地域事業活性化に関する事業等を行う。	－ H20 法人化	○	○	○
土佐清水市観光 ボランティア会	個人や小グループ・団体等を対象に、足摺岬や竜串・見残し、竜串海域公園など、市内の観光地を無料で案内している（ガイド数約 30 名）。	H11	－	○	○

団体名	取組概要	発足年	観光に関する取組		
			情報発信	団体受入	体験・ツアー等実施
土佐清水市旅館組合	土佐清水市内の宿泊施設の紹介や、観光に関する情報発信を行うとともに、市内イベント企画等へ参画し誘客促進活動を実施している。	S33	○	○	○
土佐清水商工会議所	前身の清水町商工連合会を経て、昭和29年12月20日に土佐清水市商工会を設立。新しい経済情勢に即応できる広範な活動をするためには、中央と直結する地域経済団体として商工会議所の設立が必要という商工業者の総意により、昭和32年2月11日に設立された。	S32	○	－	－

資料：各団体のHP・パンフレットおよびヒアリング結果をもとに作成
注）民間の宿泊、体験施設および飲食施設等も観光振興に重要な役割を果たすが、ここでは省略した。

1-6 土佐清水市における観光関連計画の状況

本市においては、2012（平成 24）年頃より、特に竜串地区を中心に複数の施設計画および観光関連のプロジェクトが持ち上がっています。これらの計画は本市観光に多大なる影響を与える事業となり得ます。ここでは、各計画の概要および進捗状況等について整理するとともに、広域観光の計画についても概観します。

1-6-1 新足摺海洋館

足摺海洋館は、足摺宇和海国定公園の国立公園への昇格、南国土佐への観光ブームなどを背景に策定された「海洋学園構想」の一環として高知県によって整備された水族館です。1975（昭和 50）年 5 月に開館し、その後 40 年以上にわたって「土佐の海と黒潮の魚たち」をテーマとした展示で多くの観光客を集めてきましたが、老朽化した施設の更新と耐震性能の向上のため、高知県の事業によって建て替えられることとなりました。

新しい海洋館は、眼前の竜串湾との一体感を演出した「海の水族館」をコンセプトとした 7 つの屋内ゾーン、海とつながった屋外ゾーンからなる 2 階建ての建物（建築面積：約 2,120m^2・延床面積：約 3,310m^2）として、現海洋館のすぐ西側に建てられます*。

事業スケジュールとして、2016～2017 年度に設計、2018～2019 年度末に新しい海洋館の建築工事が行われます。2020 年度の第一四半期に旧館からの生体の移動、旧館の解体および新館の外構工事が行われ、東京オリンピックの開催時期にあたる同年夏に開館予定です。

* 高知県（2015）。

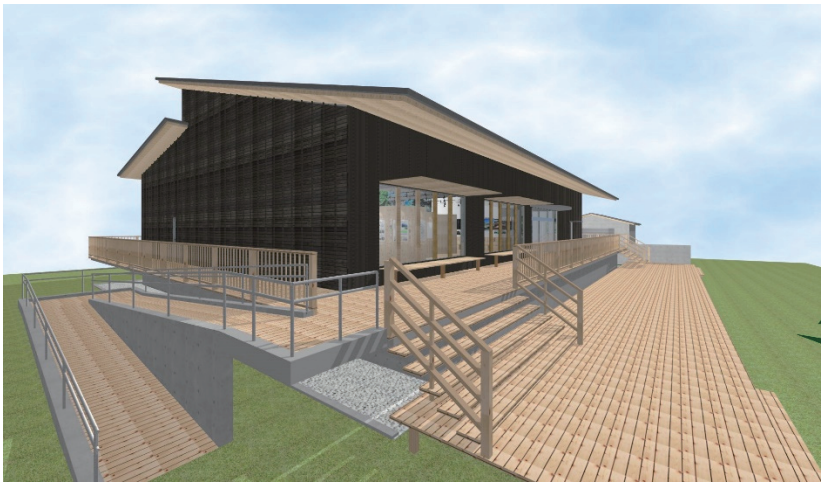
新足摺海洋館の建設イメージ
資料：高知県提供

1-6-2 足摺宇和海国立公園ビジターセンター

足摺宇和海国立公園ビジターセンター（仮称；以下、ビジターセンター）は、足摺宇和海国立公園の足摺・竜串地域の自然情報、利用情報を広く発信し、海を中心とした自然体験利用を推進する拠点として、新足摺海洋館敷地の東側に環境省が整備する博物展示施設です。竜串湾のサンゴをはじめ、当地域の自然資源を保全・活用する「竜串自然再生事業」の活動を継続的に支援する拠点としての役割を担うとともに、施設間の連携や屋外フィールドへの誘導など、竜串地区全体の利用促進に寄与することも視野に入れています*。

建物は床面積が約 400m^2 の平屋建てで、複数の利用形態に対応可能な展示室、海への展望やフィールドと連携した利用を想定したウッドデッキ、屋内外からアクセス可能なトイレやシャワー室、屋外倉庫などを備えることとなっています。

2016～2017 年度に設計、2018 年に建築工事が行われ、新足摺海洋館より約 1 年早い 2019 年春頃に開館する予定です。



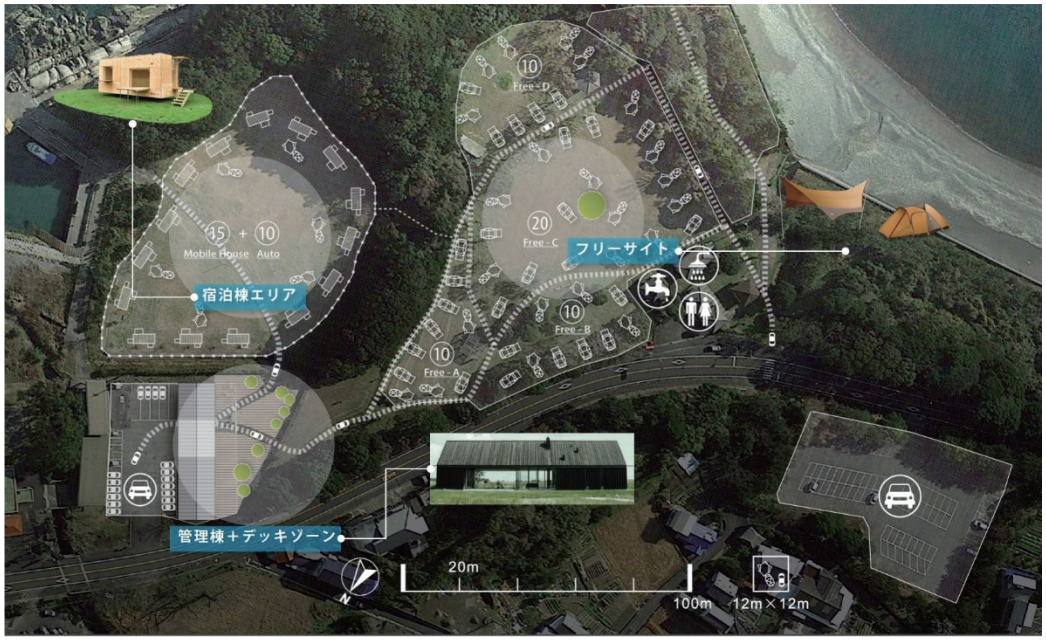
ビジターセンターのイメージ
資料：中国四国地方環境事務所

* 中国四国地方環境事務所（2016a）。

1-6-3 爪白キャンプ場

爪白キャンプ場は、竜串地区の西側に位置する芝生広場です。海と隣接したロケーションでの芝生のフリーサイトはキャンプ場として十分な訴求力が期待されることから、アウトドア総合メーカー「株式会社 スノーピーク」が計画・設計監修を行い、本市が再整備を行います。

整備計画には、コテージや管理棟の新設、トイレやシャワー棟の改修などが含まれており、2016～2017 年度に計画・設計、2018 年度に工事を行い、翌 2019 年 4 月のオープンを目指しています。



爪白キャンプ場ゾーニングイメージ
資料：土佐清水市

1-6-4 土佐清水ジオパーク構想

「ジオパーク」とは、重要な地質遺産や生態系、歴史・文化など人の営みを包括する自然の公園であり、これら地域資源の保全に努め、教育や防災、地域振興に活用することを理念とするものです。

土佐清水ジオパーク構想は、その推進によって郷土の誇りの醸成と地域の振興・活性化を目的とし、2017 年度の日本ジオパークの認定を目指しています*。2014（平成 26）年 4 月に発足した住民組織の「土佐清水ジオパーク推進準備会」と本市が協働して取組を開始し、2015（平成 27）年 2 月には「土佐清水ジオパーク推進協議会」が設立されました。2015 年度当初には本市観光商工課に「ジオパーク推進室」を設置し、住民周知や普及

Tosashimizu Geopark Plan

土佐清水ジオパークロゴ

* 土佐清水市（2015）。

活動、各種連携等を積極的に推進しています。

土佐清水ジオパーク構想は、その範囲を土佐清水市全域とし、テーマは以下のとおり設定されています。

「黒潮あらう大地が宿す 豊かな海の記憶」

また、地質学的に貴重な場所であり、ジオパークのテーマを説明できる場所としてのジオサイトの選定基準を定め、21 カ所のジオサイトを選定しています。活動計画としては、「保全と整備」、「教育・研究活動」、「ジオツーリズム」、「情報発信・地域振興」、「管理組織・運営体制の強化」を掲げて活発に取組んでいるところです。

1-6-5 幡多広域観光振興計画

幡多広域観光は、本県幡多地域に属する「四万十市」、「土佐清水市」、「宿毛市」、「大月町」、「黒潮町」、「三原村」の 6 市町村が連携し、幡多広域エリアが経済的に活性化することを目指しています。幡多広域エリアを訪れる人が増え、滞在時間が増えることによって観光消費額が増えます。それによって観光に関わる新たな生業が生まれ、人口増加や地域経済の活性化につながり、地域の人が元気になることを目的としています[*1]。

幡多広域が 2021 年に目指すべき姿として、県外観光客 7 万人以上、観光総消費額 19 億円以上と設定されています。計画では、幡多広域観光の現状について SWOT 分析[*2] を用いて把握し、目標達成に向けた取組として、「教育旅行」、「スポーツ客」、「一般観光客」それぞれに目標と対策、具体的な施策を講じていくことが明記されています（図 1-13）。

計画の中では、本市の方向性および目標も示されており、広域的な連携促進による取組を進めていくことも重要な課題となっています。

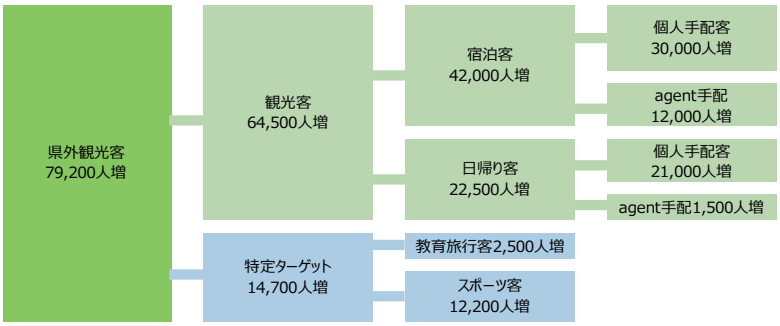


図 1-13 目標設定の考え方

資料：幡多広域観光協議会（2015）をもとに作成

*1 (一社)幡多広域観光協議会（2015）。

*2 企業などの組織が目標を達成するために、強み strengths、弱み weaknesses、機会 opportunities、脅威 threats の 4 つの指標に基づいて自己評価を行う分析手法。

1-7 土佐清水市観光の課題

ここまでに整理した本市の観光資源の状況や各種データ、観光に関わる社会的な背景などを踏まえて、以下に土佐清水市観光の課題を導出します。ここに挙げた課題を一つひとつクリアしていくことで本市観光の道筋が開かれていくものと考えられます。

◇観光資源の保全

近年では、高齢化・過疎化が進展し、人間活動の縮小による生物多様性の危機が懸念されています。本市は、その海岸線のほとんどが足摺宇和海国立公園に指定され、雄大な自然環境をベースに有数の観光地として発展してきました。すなわち、足摺岬の絶景やツバキ、竜串の奇岩、海域公園のサンゴなど、自然の恩恵を受けたこれらの資源を将来にわたって確実に保全していくことが大切です。また、地域固有の歴史文化資源も大きな観光のコンテンツです。農林漁業や暮らしとともに培われた景観などの価値を活用していくことも重要となります。

◇宿泊利用者の減少

本市への宿泊客は、10 年間で約 10 万人減少しています（△35.7%）。観光客入込数の減少（△8.0%）に比べてその減少率は大きく、本市を訪れても宿泊はしないというスタイルが浮き彫りとなっています。食の充実や夜間の体験メニューなどの拡充を図り、宿泊客を増やしていくことが大きな課題です。

そのため、宿泊の詳しい状況をはじめ、観光客全体の動向について、詳細な統計データを集積していくことも今後重要と考えられます。

◇効果的な情報発信

現状、多数の団体が観光に関する情報発信を行っています。しかしその発信方法はバラバラで統一感がなく、受け取る側にとってもわかりにくいのが実状といえます。「誰に」、「どんな情報を」、「どういう方法で」伝えていくかについて、効果的な情報発信の検討が必要です。

◇観光関連人材の確保

増加する外国人観光客や、地域の歴史文化、自然環境に興味を持つ個人客に対応するため、ガイドや体験メニューのインストラクターなど、専門的な人材の確保が急務です。また、観光関連産業の人材不足は深刻であることから、本市の自然や文化資源を活用した環境学習を活発化させ、将来的な人材を育成していくことも重要な課題です。

◇おもてなしの心の醸成

本市が魅力ある観光地となっていくためには、ここに暮らす市民自らが地域に対する愛着を持つことが重要です。訪れる人たちに楽しんでほしいというおもてなしの心を醸成していくため、市民がもっと自分のまちのことを知り、誇りを持てるまちづくりに取組むことが大切です。

◇地元「食」の充実

本市の「食」は、豊かな海の産物が基本です。美味しい魚の安定的な供給と観光客に喜ばれるメニュー開発、昼食の時間帯の充実なども必要な取組となります。また、地元ならではの伝統的な「食」を見直し、発信していくことも重要です。

◇二次交通の拡充

本市への来訪の手段としては、自家用車が多くなったとはいえ、やはり二次交通の拡充は必須条件です。将来的に二次交通を確保・継続させていくための検討が求められます。また、泊食分離に係る宿泊先から市内中心街への移動手段の確立も大きな課題です。

◇地区間および施設間の連携

現状、足摺地区と竜串地区はほぼ別々の観光地として成立している状況といえます。今後は両地区が実施している観光メニューを関係者が共有し、協力し合うことが必要です。また、市街地においても「食」の充実とともに「泊食分離」といった取組への対応を強化していくことが求められます。さらに、幡多広域観光としての協力・連携も重要になってきます。

◇観光関連施設等の整備

団体や個人、外国人観光客など、あらゆる観光客に快適に本市観光を楽しんでもらうために、わかりやすいサインやきれいなトイレ、駐車場整備など、ユニバーサルデザイン*を念頭に置いた整備・改修も必要です。また、新たな施設が複数計画されている竜串地区においては、地区間をつなぐ遊歩道の整備や老朽化施設の対応策の検討なども重要な課題であるといえます。

* 文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わず利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）をいう。障害のある人の便利さや使いやすさという視点ではなく、障害の有無にかかわらず、すべての人にとって使いやすいようにはじめから意図したデザイン。

第 2 章

マスタープランの基本的な考え方

土佐清水市の観光の理念ならびに目指すすがたを明確にし、観光マスタープランの５年間の計画期間において実現していくべき２つの目標を掲げます。

2-1　土佐清水市観光の理念

本市は、1970（昭和 45）年にその海岸線のほとんどが足摺宇和海国立公園に指定され、以降、雄大な自然環境をベースに足摺岬や竜串を中心とした有数の観光地として発展してきました。昨今では観光ニーズの多様化が叫ばれるなか、体験型・滞在型観光への取組や観光と地域産業との連携等、個人客・外国人観光客への対応やリピーターの確保に向け、積極的に展開を図ろうとしているところです。

一方で、少子高齢化による地域経済の衰退、祭りや食などの地域文化の継承に対する不安も高まっています。また、観光客は現状 70 万人前後で推移していますが、宿泊者数の増加とともに 80 万人観光を目指していくには、受入側の体制は脆弱であるといわざるを得ず、老朽化する施設への対応をはじめ、多様な地域資源も有効に活かされていない状況です。但し、このような中で、本市においては 2014（平成 26）年より「ジオパーク」としての指定を目指し、また、竜串地区においては、新海洋館やビジターセンターの建設、爪白キャンプ場の整備等、新しく力強い風が吹いてきたことも事実です。

マスタープランは、本市における観光政策の軸となるものですが、これによって観光振興をなすことで観光地・土佐清水としての矜持を持ち、そしてなによりも市民が誇りと幸せを感じ、ここに暮らし続けていけることが大切です。市民の主体性や社会的・文化的な自立性を高めることはすなわち「まちづくり」です。したがって、マスタープランは市民の生活を豊かにする「観光まちづくり」の指針であるともいえ、市民、観光客、観光関係者の全てが楽しく活力を持てるまちにしていくことを目指します。

このような考え方をベースに、本市観光の理念は、本市総合振興計画に基づき、以下のように設定します。

みんなでつくる愛と自然に満ちた活力あるまち

本市における観光振興はまちづくりです。
紺碧の海やダイナミックな景観、地元の祭りや食、暮らしの歴史と文化、土佐清水にある全ての資源を守り活かし、自らが誇りを持って訪れる人たちにもその価値を伝えていきます。
訪れる人ももてなす人も、お互いが楽しく笑顔にあふれ、新しい発見や新しい出会いが生まれる、そんな観光まちづくりを目指します。

2-2 目指すすがた

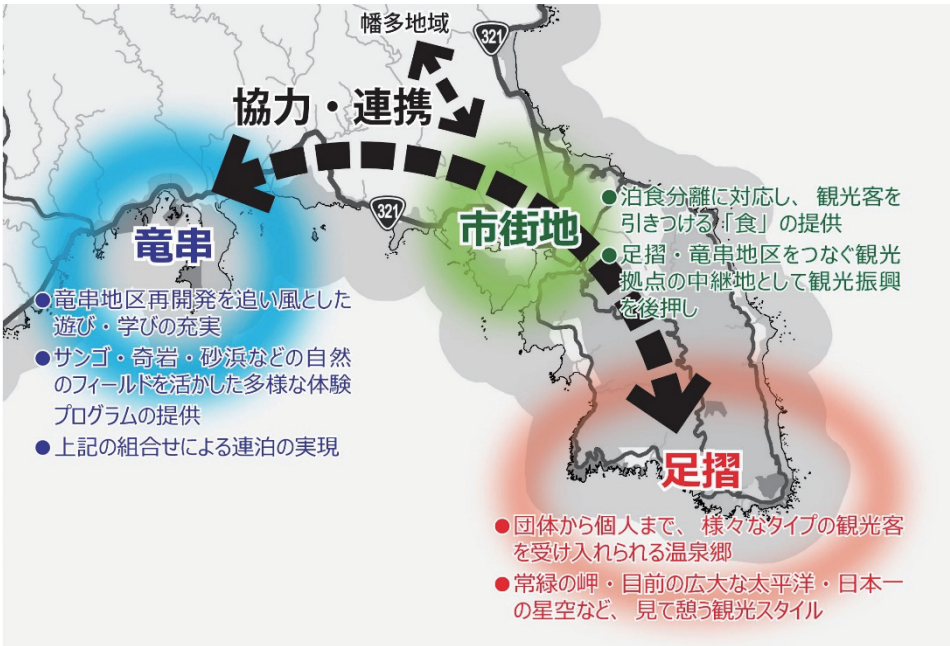
前項の土佐清水市観光の理念を踏まえて、本市観光が将来的に目指すすがたを示します。このすがたの実現に向けて具体的な取組を進めていきます。

市民誰もがおもてなしの心を持つ観光地

市民一人ひとりが地元の豊かな自然や歴史・文化的な価値をよく知り、誇りと愛着を持ち続けます。このことによって、本市を訪れる人が、どこに行っても誰と会っても何をしても楽しさや感動を覚える観光地を目指します。

地域が連携し多様なニーズに応えられる観光地

人材、施設、交通などの充実が図られ、足摺地区・竜串地区・市街地が協力連携して、「宿泊」、「遊び・学び」、「食」といった団体・個人の様々なニーズに応えられる魅力的な観光地を目指します。また、広く幡多地域との連携も図ります。



2-3　マスタープランの目標

本市は、将来にわたって目指すすがたの実現に向かって様々な取組を進めていきますが、マスタープランの期間は当面の 5 年間であるため、本期間の成果目標を定めておく必要があります。目標は、達成度が把握しやすいよう数値目標とし、次章以降の実現戦略に着実に取組むことでその達成を目指します。

成果目標 1

オールシーズンの賑わいの促進

【年間 80 万人観光を目指す】

本市観光の魅力は海の資源によるものが多く、現状夏場の観光客が大半を占めていますが、まだそのポテンシャルは残されていると考えられます。一方、冬場のオフシーズンにおける観光の楽しみ方は少なく、今後、竜串地区の施設観光や爪白での冬場のキャンプ、足摺地区でのスターウォッチングやツバキ観光など、オフシーズンにも楽しめるメニューを拡充し、冬場の観光客増加も図ります。

2015（平成 27）年における観光客数は、691,638 人となっています。計画期間において春～夏季 7 万人増（約 17%増）、秋～冬季 4 万人増（約 15%増）を目指します。

成果目標 2

地区および主体間連携による本市滞在時間の増加

【観光客滞在の市内プラス 1 泊を目指す】

マスタープランによる観光振興、賑わいの促進を図っていくための具体的な指標として、本市平均宿泊数を設定します。竜串地区の再整備をはじめ、足摺地区と市内中心街との連携による泊食分離や夜のイベントなどを組合せ、本市内でこれまでよりもプラス1泊観光の増加を目指します。

現状においては、正確な平均宿泊数データがとれていないため、2017 年度以降に正確なデータを把握し、その後経年的に調査を継続して計画の最終年度に達成状況を評価します。

第 3 章

マスタープラン実現戦略

土佐清水市の現状と課題を踏まえ、2021 年度末までの観光戦略について 3 つのテーマを掲げて具体的な戦略および取組を提示するとともに、プランの線表を整理します。

3-1 戦略の基本方針

前述した本市観光の現状と課題を踏まえながら、マスタープランの目標を実現していくためのテーマおよび戦略の基本となる方針を以下に示します。

テーマ 1 地域資源を守る

本市には、国立公園における海域景観をはじめ、足摺岬や竜串の奇岩等多種多様な自然資源が存在します。また、これら自然の恵みを活かした産業や暮らしなど、歴史・文化的な資源も豊富に息づいています。これら地域資源が観光の基盤となっていることを再認識しつつ保全意識を高めるとともに、市民が地域のことをもっと知り、愛着を感じられるような取組を進めます。さらに将来的に地域資源を守っていく子どもたちへの環境学習を促進します。

テーマ 2 資源の価値を広める

豊かな地域資源の価値を広く伝えていくために、効果的な情報発信や体験プログラムの拡充、ガイドなどの人材育成、地域固有の「食」の安定供給などを図っていきます。また、竜串地区を一体的な観光拠点として位置づけるため、各拠点施設の連携を強固なものとし、加えて足摺地区、ひいては幡多広域との連携も進め、観光客にとって価値あるツアープログラムを作り上げていきます。

テーマ 3 観光の魅力を高める

本市観光において重要な交通手段である二次交通の継続・拡大を検討していきます。また、個人客および外国人観光客などに対応した統一的なサインや、パンフレットなどの作成、地域の一体感を育む遊歩道などの整備を実施します。そのほか休憩所やトイレ、Wi-Fi 環境など、観光関連施設の整備も進め、本市観光の魅力をさらに高めていきます。

3-2 戦略と取組一覧

戦略の基本方針に基づき、マスタープランの体系を示します（図 3-1）。マスタープランにおいては、「地域資源を守る」、「資源の価値を広める」、「観光の魅力を高める」といったテーマごとに、計画期間である 5 年間のうちに検討・実施する 11 の戦略と 33 の取組を設定しました。この戦略の検討・実施については、本市はもとより、市民や関係主体と協働・連携して、実効性の高い取組としていきます。

また、章末にはマスタープランの線表を整理しました（表 3-2）。取組ごとに、いつ誰が主体となって実施していくかを明確にしています。

目指すすがた

市民誰もがおもてなしの心を持つ観光地

地域が連携し多様なニーズに応えられる観光地

マスタープランの目標

成果目標 1

オールシーズンの賑わいの促進

【年間 80 万人観光を目指す】

本市観光の魅力は海の資源によるものが多く、現状夏場の観光客が大半を占めていますが、まだそのポテンシャルは残されていると考えられます。一方、冬場のオフシーズンにおける観光の楽しみ方は少なく、今後、竜串地区の施設観光や爪白での冬場のキャンプ、足摺地区でのスターウォッチングやツバキ観光など、オフシーズンにも楽しめるメニューを拡充し、冬場の観光客増加も図ります。
2015（平成 27）年における観光客数は、691,638 人となっています。計画期間において春～夏季 7 万人増（約 17%増）、秋～冬季 4 万人増（約 15%増）を目指します。

成果目標 2

地区および主体間連携による本市滞在時間の増加

【観光客滞在の市内プラス 1 泊を目指す】

マスタープランによる観光振興、賑わいの促進を図っていくための具体的な指標として、本市平均宿泊数を設定します。竜串地区の再整備をはじめ、足摺地区と市内中心街との連携による泊食分離や夜のイベントなどを組合せ、本市内でこれまでよりもプラス 1 泊観光の増加を目指します。
現状においては、正確な平均宿泊数データがとれていないため、2017 年度に正確なデータを把握し、その後経年的に調査を継続して計画の最終年度に達成状況を評価します。

課題

◇観光資源の保全	①②
◇宿泊利用者の減少	③④⑥⑩
◇効果的な情報発信	③
◇観光関連人材の確保	②⑤
◇おもてなしの心の醸成	②⑤
◇地元「食」の充実	⑥
◇二次交通の拡充	⑨
◇地区間および施設間の連携	④⑦⑧⑩
◇観光関連施設等の整備	⑪

具体的な取組

テーマ 1　地域資源を守る

● 戦略①　地域資源の保全管理	●オニヒトデの駆除活動や、生きもののモニタリング活動など、自然資源を保全していく活動の拡充 ●自然環境を題材とした調査研究活動の支援 ●足摺ヤブツバキ再生に向けた活動推進
● 戦略②　地域を守る意識の醸成	●市民を対象にした地元の価値を学ぶ学習会の開催 ●森での間伐体験や川の生きもの調査、海での自然観察会や漁業体験、足摺ヤブツバキ再生活動など、自然資源を活かした環境学習の拡充 ●本市へのＩターン、Ｕターン者への支援

テーマ 2　資源の価値を広める

● 戦略③　ターゲットを明確にした情報発信	●観光情報の発信状況の整理、見直し、および発信主体間での情報内容の共有と効果的な情報発信の方法についての検討 ●外国人観光客や体験観光、スポーツツーリズムなど、ターゲットを明確にした情報発信方法の検討、実施 ●蓄積された環境情報などの活用検討 ●官民協働による市全体の誘客ＰＲ活動と竜串地区新施設の一体的なプロモーションの実施 ●観光客の動態、宿泊利用の詳細など統計調査の実施
● 戦略④　体験プログラムの拡充	●利用可能な体験プログラムの整理、見直し、および関係主体間の情報共有の検討 ●新たな体験プログラムの検討
● 戦略⑤　土佐清水の魅力を広める人材の確保・育成	●ツアーガイド、インストラクターなどの人材の掘り起こし ●ジオガイド養成や観光ボランティアと連携した人材の拡充および受入体制の整備 ●台湾の大学との人材交流の強化
● 戦略⑥　土佐清水ならではの「食」の提供	●「食」をテーマにした取組の開催 ●「清水サバ」をはじめとする旬の魚の安定供給に向けた関係主体間での検討
● 戦略⑦　観光拠点施設の連携促進	●各拠点間の人材交流および情報共有 ●芝生広場、竜串地区東側の駐車場、桜浜などを活用した各種イベントの開催
● 戦略⑧　広域的な連携の促進	●地区間共同および幡多広域観光協議会との協働によるツアープログラムの開発

テーマ 3　観光の魅力を高める

● 戦略⑨　二次交通の継続および拡大	●「しまんと・あしずり号」の継続・拡大に向けた県および民間事業者への働きかけ ●民間事業者との連携による交通体系創出の検討
● 戦略⑩　地区の一体感と活性化を育む整備の促進	●竜串地区全体をつなぐ遊歩道の整備促進 ●サンゴ博物館の取り壊しおよび跡地利用の検討 ●「竜串休憩所」の取り壊し ●「ジオパークセンター」の設置の検討 ●「唐人駄場」の整備促進
● 戦略⑪　観光関連施設等の整備促進	●駐車場、休憩所、トイレ、遊歩道など、ユニバーサルデザインによる改修・整備 ●「見残し」のトイレ整備 ●案内看板の見直しおよび統一 ●観光施設における Wi-Fi 環境の整備促進 ●外国人観光客に対応したパンフレットなどの作成

図３－１　マスタープランの体系

テーマ１　－地域資源を守る

戦略①　地域資源の保全管理

本市観光のベースといえる自然資源の保全管理を確実に実施し、自然環境をベースとした観光振興を継続させます。本市の海岸線のほとんどは「足摺宇和海国立公園」に含まれ、特に竜串地区は、我が国最初の海中公園地区（現 海域公園地区）に指定されています。テーブルサンゴやキクメイシなどの数々のサンゴが成育する海の環境および桜浜などの砂浜は本市の貴重な財産です。また、足摺地区のビロウやアコウなどの亜熱帯植物やヤブツバキなどの常緑広葉樹なども本市観光を支える資源であることから、森・川・里・海のつながりを重視し、本市の自然資源を適切に保全管理していきます。

さらに、本市にはこれら自然の恵みを活かした産業や暮らしなど、歴史・文化的な資源も豊富にあります。これらの価値も見直しながら体験プログラムなどへの展開を図っていきます。

オニヒトデ駆除

桜浜

◇具体的な取組

- **オニヒトデの駆除活動や、生きもののモニタリング活動など、自然資源を保全していく活動の拡充**
- **自然環境を題材とした調査研究活動の支援**
- **足摺ヤブツバキ再生に向けた活動推進**

戦略②　地域を守る意識の醸成

観光のベースである自然や歴史・文化的資源を継続的に保全していくためには、その価値を知り、地域に愛着を持つ市民を増やしていくことが重要です。自らが暮らす地域に誇りを持つことによって訪れる人たちに楽しんでほしい、感動してほしいというおもてなしの心が育まれます。また、近年では自然に触れる機会が減少し、地元のことをよく知らないという子どもたちも増えています。地元を離れる若者も多く、観光関連産業の人材不足は深刻です。したがって、市民を対象にした地元の価値を学ぶ学習会や、小・中学生の頃より地域の自然や歴史・文化的な価値に触れ、体験することで地元の良さの認識を高める環境学習の拡

充を図ります。森・川・里・海での学びを通して地元愛を育むとともに、将来的に地元に残る、または地元に帰って職に就く人材を育成していきます。

小学生による観光ガイド

間伐体験

ツバキ再生プロジェクト

◇具体的な取組

- 市民を対象にした地元の価値を学ぶ学習会の開催
- 森での間伐体験や川の生きもの調査、海での自然観察会や漁業体験、足摺ヤブツバキ再生活動など、自然資源を活かした環境学習の拡充
- 本市へのＩターン、Ｕターン者への支援

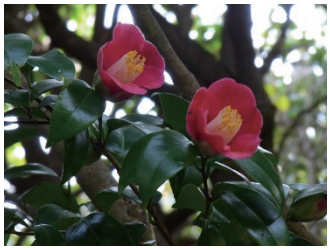
Topics

【足摺岬のツバキ再生の取組】

足摺宇和海国立公園の保全管理を行う環境省は、本市ならびに地元住民組織などと共同で足摺岬のヤブツバキ林再生の新たな取組に着手した。足摺岬周辺には国内有数のヤブツバキ群落など地域固有の自然環境があり、1972（昭和 47）年に特別保護地区に指定されている。その後、メダケの繁茂が目立つようになり、1999（平成 11）年より対策に着手。本市の事業とあわせて 2011（平成 23）年までに約 1,000 本のツバキを植え、メダケの除去も行ってきたが、勢いは衰えていない。

本年度より始めたヤブツバキ林再生の取組は、このメダケを取り除き、ヤブツバキを中心にトベラなど 6 種計 2,000 本の苗木を育て、2019 年度から植樹するもので、その対象は、足摺岬先端に近い 2,200m^2 とし、そのうち人目につきやすい 170m^2 を先行区域としている。また、固有種保存のため、苗木は足摺岬周辺で種を採取して育てるとともに、育苗手順やメダケの伐採方法などをマニュアルにまとめる。

これまでも対策に関わってきた住民組織とともに取組を進め、若者にも参加を呼びかけるなどして本市全体に広げて観光資源としてのヤブツバキ再生を目指していく。


ヤブツバキ

テーマ２　－資源の価値を広める

戦略③　ターゲットを明確にした情報発信

本市の観光資源である自然や歴史・文化をはじめ、それらを活かしたアクティビティや食などの魅力を多くの人に伝えて誘客につなげます。近年では、個人客が増加していることから、地域固有の価値を丁寧に伝えていくことに配慮します。情報発信は、各主体が自主的に行っていきますが、情報の内容は各主体間で共有し、SNS*や動画などをツールとした即時的な PR に努め、PC やスマートフォン、タブレット利用者などに訴求します。また、外国人観光客や体験観光、スポーツツーリズムなど、ターゲットを整理し、それぞれに対応した効果的な情報発信に取組みます。

竜串地区における新しい施設群については、その存在を広く伝えていくために本計画期間内に大規模なプロモーションを図っていく必要があります。官民協働による本市全体の誘客PR活動と合わせて、相乗効果を見据えた広報活動を展開します。竜串地区においては、「竜串自然再生事業」によってサンゴ群集の状況はもとより、周辺の環境に関する膨大なデータが蓄積されています。これらの情報とあわせて、周辺海域は研究者にとっては魅力的なフィールドとなり得ることから、このような情報の有効活用についても検討していきます。

さらに、ターゲットを明確にしていくためには、観光客の動向、宿泊利用者などに対する詳細なデータ集積を図っていく必要があります。関係機関と連携し、今後の施策に反映できる統計調査を実施していきます。

シーカヤック

外国人観光客

◇具体的な取組

- 観光情報の発信状況の整理、見直し、および発信主体間での情報内容の共有と効果的な情報発信の方法についての検討
- 外国人観光客や体験観光、スポーツツーリズムなど、ターゲットを明確にした情報発信方法の検討、実施
- 蓄積された環境情報などの活用検討
- 官民協働による市全体の誘客ＰＲ活動と竜串地区新施設の一体的なプロモーションの実施
- 観光客の動態、宿泊利用の詳細など統計調査の実施

---

* Social Networking Service の略。人と人との繋がりを促進・支援するコミュニケーション型のウェブサイトおよびネットサービス。

Topics

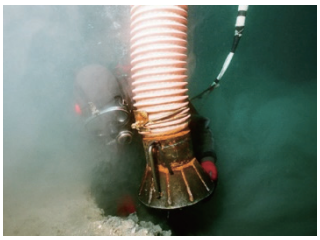
【竜串自然再生事業】

足摺宇和海国立公園の竜串海域公園地区では、1989（平成元）年頃よりサンゴ群集の衰退現象が見られるようになり、さらに 2001（平成 13）年 9 月には、高知県西南地域で発生した局所的な集中豪雨（高知県西南豪雨）によって、大量の泥土が竜串湾に流出し、多くのサンゴ群集が死滅するなど、大きな打撃を受けた。

このため、環境省は 2003（平成 15）年より竜串地区の自然再生事業推進に係る調査を開始するとともに、2006（平成 18）年には自然再生推進法にもとづき、高知県ならびに土佐清水市と共同で 72 の個人・行政・団体で構成された「竜串自然再生協議会」を設立した。以来、サンゴ群集の衰退原因を究明することを主目的として、竜串湾と竜串湾に流れ込む河川の流域調査を実施し、その結果、流域から流入した泥土や濁質がサンゴの成育と再生に大きな影響を及ぼしていたことが判明した。環境省は、2006（平成 18）年度から 2013（平成 25）年度の間の 6 年間に西南豪雨に起因する泥土の除去工事を実施、地域の各主体は山・川・海の各エリアにおいて様々な取組を実践した。

この結果、竜串湾内のサンゴ群集の回復傾向は顕著となり、「竜串湾内に本来生息しているイシサンゴ類をはじめとする多くの生きものが健全な状態で生き続けていける環境を取り戻す」という竜串自然再生の目標は達成された。

竜串自然再生協議会は、2016（平成 28）年度より地域の主導による体制に移行し、サンゴ群集をはじめとする地域の自然資源を守りながら活かし、後世に引き継いでいくという新たなターゲットに向かっていくこととなっている。



泥土除去作業の状況と復活したサンゴ群集
資料：中国四国地方環境事務所（2016b）

戦略④　体験プログラムの拡充

本市においては、多種多様な資源を活かした様々な体験プログラムが提供されています（表 3-1）。特に、海を活用したアクティビティは民間団体を中心に充実が図られ、利用者数も伸びているのが実状です。しかし一方で、実施主体および窓口的な機能は分散し、利用者にとってはややわかりにくい構造になっているものと考えられます。

今後は、ビジターセンターにおけるワンストップ機能や、新海洋館のコンシェルジュ機能などと協力・連携して体験プログラム情報の集約を図り、利用者にとって使い勝手のいい機能整備を進めます。さらに関係主体と連携し、メニューの増加および現状のプログラムの磨き上げに努め、今後増加が見込まれるシニア層など、あらゆるターゲット層に対応した魅力ある体験プログラムを提供していきます。

シュノーケリング教室

スキューバダイビング

スターウォッチング

表３－１　本市で実施されている体験プログラム

分野	プログラム
自然体験	ホエールウォッチング、グラスボート、スターウォッチング、漁船海上遊覧、海釣り、海水浴、川・磯遊び
スポーツ体験	マンボウ・ジンベエスイミング、スキューバダイビング、シュノーケリング、シーカヤック、レンタサイクル、SUP
歴史体験	不思議ストーンサークル、ジョン万漂流体験、竜串海岸トレッキング
産業体験	定置網漁（大敷網）体験、間伐体験、カツオたたきづくり、節納屋体験（宗田節工場の体験見学）
施設見学	足摺海洋館、足摺海底館、海のギャラリー、ビジターセンター、ジョン万次郎資料館
ホームステイ・キャンプ	農漁村ホームステイ、爪白・唐人駄場キャンプ（スノーピーク）

注）プログラムは現在実施しているもののほか、予定のものも含んでいる。

◇具体的な取組

- 利用可能な体験プログラムの整理、見直し、および関係主体間の情報共有の検討
- 新たな体験プログラムの検討

戦略⑤　土佐清水の魅力を広める人材の確保・育成

本市の観光振興を図っていくためには、竜串地区や足摺地区の魅力を伝え広められる人材の確保・育成が急務です。自然資源や歴史・文化資源の価値をわかりやすく解説できる人材や、自然を活用したアクティビティ、海や山での遊び方などのインストラクター、地域のガイドが行えるような人材を掘り起こしていきます。さらに、ジオパークの推進に係るジオガイドの養成や観光ボランティアなどとの連携を図ることで人材を拡充し、いつでも観光客や教育旅行などを受入れ、対応できる体制をつくっていきます。

また、本市の外国人観光客は台湾からの観光客が約 8 割を占めていますが、本市では台北の大学とインターンシップ協定を結び、足摺地区のホテルにおいて研修生を受け入れるなど、人材交流を実施しています。外国人観光客への細やかな対応は、本市観光の価値を高めることから、今後、インターンシップ受入期間の延長および人員増を検討していきます。

観光ボランティア

インターンシップとの交流

ジオガイド養成講座

◇具体的な取組

・ツアーガイド、インストラクターなどの人材の掘り起こし
・ジオガイド養成や観光ボランティアと連携した人材の拡充および受入体制の整備
・台湾の大学との人材交流の強化

戦略⑥　土佐清水ならではの「食」の提供

昨今の観光の大きなコンテンツは、地域固有の魅力的な「食」の存在です。本市では、「清水サバ」をはじめとして、旬の魚や「宗田節」など、多品種の海の幸が豊富であり、さらには「ペラ焼き」といった地域特有のメニューも広く知られています。しかし、清水サバは安定的な供給が難しく、いつでも食べられるというわけではないのが実状です。また、観光客が気軽に食べられるスポットも限定され、昼食時などにおける対応にも課題が残されています。

市内中心街においては、2016（平成 28）年 12 月より、宗田節を活用した「宗田節ロード」といった取組を展開しています。このような取組を広げ、観光客に地元自慢の「食」をいつでも、そして市内のあらゆる場所で味わっていただけるよう、関係主体と協働・連携して取組んでいくとともに、名物である「清水サバ」および旬の魚の安定供給に向けて、関係主体間での検討を進めます。

清水サバ

宗田節

ペラ焼き

◇具体的な取組

・「食」をテーマにした取組の展開
・「清水サバ」をはじめとする旬の魚の安定供給に向けた関係主体間での検討

Topics

【宗田節ロード】

土佐清水市市街地の居酒屋や食堂など 11 店舗が宗田節を使った料理を提供する「宗田節ロード」が 2016（平成 28）年 12 月よりスタートしている。

本市の宗田節の生産量は 1980 年代に年間 2,000t を超えていたが、近年は 400～600t 台にとどまっている。その一方で、「宗田節入りしょうゆ差し」など、市内業者が開発した商品や加工品が県内外で人気を集めており、消費者の認知度は高まっている。

飲食店の定番料理や新たに開発したメニューなどをパンフレットなどによってまとめて PR することで、消費拡大と観光振興につなげていく。

宗田節ロードチラシ

戦略⑦　観光拠点施設の連携促進

本市全体の観光振興のためには、竜串地区における拠点間の連携が重要となります。新海洋館、ビジターセンター、爪白キャンプ場については、各整備主体が本年度より協議を開始し協力体制を構築していますが、これらに加えて既存の施設である「足摺海底館」や「レスト竜串」、「海のギャラリー」、「グラスボート」などとも連携を図っていきます。

竜串地区を一体的な観光拠点として位置づけ、情報共有や人材交流はもとより、地域住民が観光客との交流を図り、経済的な側面からも恩恵を受けられるよう、新海洋館東の芝生広場や竜串地区東側の駐車場、桜浜などを活用し、地場産物の販売や各種イベントの開催など、拠点施設が協力し合って地区全体の賑わいをつくっていきます。

奇岩フェスティバル

爪白キャンプ場

海のギャラリー

◇具体的な取組

- 各拠点間の人材交流および情報共有
- 芝生広場、竜串地区東側の駐車場、桜浜などを活用した各種イベントの開催

戦略⑧　広域的な連携の促進

本市観光においては、足摺地域も大きな役割を果たしています。足摺岬や唐人駄場、金剛福寺、あしずり温泉郷などは観光客にとって魅力ある資源です。ただし、観光のトレンドは個人客に移行しつつあり、「見るだけ」の観光から、知識としてもっと深く「知る」ことや「体験する」観光が求められてきています。足摺地区は宿泊地として大きなキャパシティがあり、今後は団体客への継続的な対応に加え、「泊食分離」といった考え方も加えて、地域市街地との連携を進め、個人客に対応していく必要があります。足摺地区においては国内有数の美しい夜空を見ていただく「スターウォッチング」が行われており、このような夜間のイベントを広げていくことによって宿泊を促し、市街地で地域固有の食材を提供して翌日竜串地区で体験観光などを楽しむという流れを生み出すことができます。

さらに幡多広域という、より広いエリアで観光を捉えれば、観光客にとってさらに魅力的なツアープログラムの構築が可能となります。本市関係機関をはじめ、幡多広域観光協議会などとも連携を深め、観光客にとって価値あるプログラムを作り上げていきます。

本市の魅力的なイベント（椿まつりと海開き）

◇具体的な取組

・地区間共同および幡多広域観光協議会との協働によるツアープログラムの開発

テーマ３　－観光の魅力を高める

戦略⑨　二次交通の継続および拡大

本市を訪れる交通手段は、自家用車以外ではバス利用しかない現状において、二次交通は観光を支える生命線ともいえます。その中にあって、周遊バスの「しまんと・あしずり号」が果たす役割は大きく、この存続は本市観光振興の鍵を握ると考えられます。2017 年度から 2 年間は、「志国高知 幕末維新博」の開催もあり、ルートの大幅な変更はあるものの、運行の継続は確定しています。しかし、その後の運行は不透明であり、この継続と拡大に向けた働きかけを根気強く行っていきます。

また、泊食分離に係る足摺地区および竜串地区の宿泊者の市内中心街への移動手段について、民間事業者との連携のもと、市内を循環するような交通体系の創出を検討していきます。

しまんと・あしずり号
周遊観光バスツアー
パンフレット

◇具体的な取組

- 「しまんと・あしずり号」の継続・拡大に向けた県および民間事業者への働きかけ
- 民間事業者との連携による交通体系創出の検討

戦略⑩　地区の一体感と活性化を育む整備の促進

今後予定されている竜串地区の新たな拠点整備は、地区の西側に集中しています。現状、地区を東西につなぐ遊歩道は、樹木が鬱蒼と茂った場所が多いことから地区特有の開放感が阻害され、また一部通りづらい箇所があることも相まって、その一体感が薄れているのが実状です。したがって、本計画期間内において関係機関と協力連携のうえ、地区間の連携を育み、歩いて楽しい遊歩道の整備を施します。

また現在、竜串地区の東側で廃墟となっている「サンゴ博物館」については、地元住民および関係者の意見を聞きながら取り壊しとその跡地の有効活用策について検討していくこととし、同じく廃墟となっている「竜串休憩所」については取り壊し、地区の一体的な活性化と観光地としての美観形成に寄与します。さらに、日本ジオパーク認定を目指して準備を進めている土佐清水ジオパーク構想に関連する取組として、活動の拠点となる「ジオパークセンター」の設置を検討します。この検討にあたっては、本市全体の活性化を睨んで、複合的な施設整備の必要性も合わせて協議していくこととします。

足摺地区においては、自然体験ができるパワースポットとして観光活性化のポテンシャルの高い「唐人駄場」の整備を進め、さらなる活用の展開を図っていくこととします。

遊歩道の現状

サンゴ博物館

竜串休憩所

◇具体的な取組

・竜串地区全体をつなぐ遊歩道の整備促進
・サンゴ博物館の取り壊しおよび跡地利用の検討
・「竜串休憩所」の取り壊し
・「ジオパークセンター」の設置の検討
・「唐人駄場」の整備促進

戦略⑪　観光関連施設等の整備促進

本市観光の魅力を高める駐車場やサイン、トイレ、遊歩道などについて、ユニバーサルデザインを念頭に置いた改修・整備を進めます。とりわけ、重要な観光スポットでありながら、以前よりトイレなどの整備が課題として懸念されていた「見残し」については、2017 年度に整備を実施します。また、現状乱立している案内看板なども見直しを図り、統一感があってわかりやすく、外国人観光客にも対応したサイン設置を進めていきます。そのほか、各観光施設における Wi-Fi 環境*の整備促進や、外国語版観光パンフレットなども作成していきます。

案内看板の現状

◇具体的な取組

・駐車場、休憩所、トイレ、遊歩道など、ユニバーサルデザインによる改修・整備
・「見残し」のトイレ整備
・案内看板の見直しおよび統一
・観光施設における Wi-Fi 環境の整備促進
・外国人観光客に対応したパンフレットなどの作成

* 無線 LAN（Local Area Network）の規格の一つ。PC やテレビ、スマホ、タブレット、ゲーム機などのネットワーク接続に対応した機器を、無線（ワイヤレス）で LAN に接続できる環境。

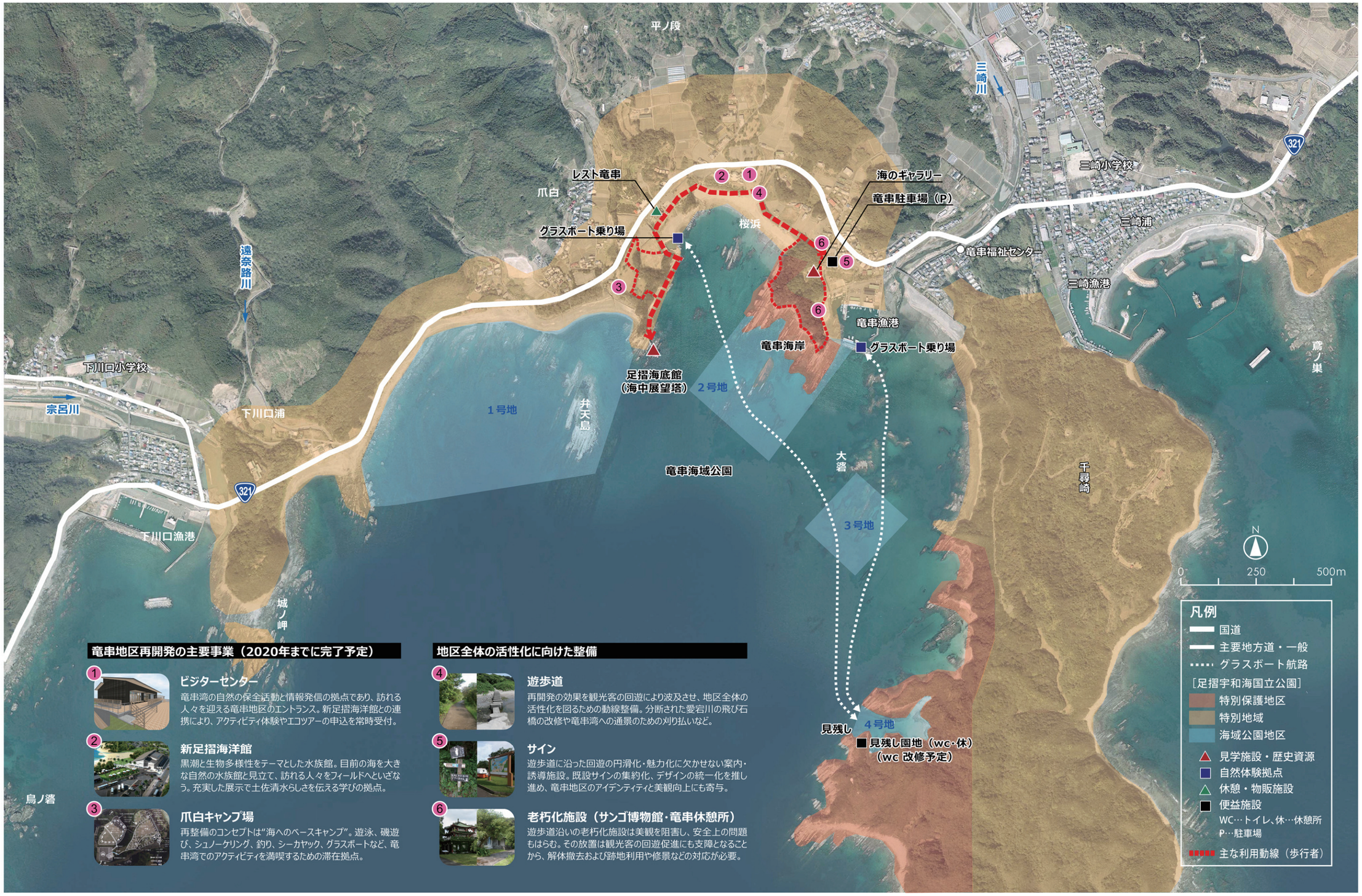


図３－２　竜串地区における整備計画などの概要

資料：中国四国地方環境事務所（2016a）を参考に作成

表３−２　マスタープラン線表

テーマ	戦略		取組		協働・連携主体				土佐清水市		実施期間				
					市民	事業者	NPO等団体	国・県	市	担当課	2017	2018	2019	2020	2021
テーマ１ 地域資源を守る	①	地域資源の保全管理	1	オニヒトデの駆除活動や、生きもののモニタリング活動など、自然資源を保全していく活動の拡充	○	○	○	○	○	農林水産課 観光商工課	実施				
			2	自然環境を題材とした調査研究活動の支援			○	○	○	観光商工課	検討・実施				
			3	足摺ヤブツバキ再生に向けた活動推進	○		○	○	○	農林水産課 観光商工課	実施				
	②	地域を守る意識の醸成	4	市民を対象にした地元の価値を学ぶ学習会の開催		○	○	○	○	観光商工課	検討・実施				
			5	森での間伐体験や川の生きもの調査、海での自然観察会や漁業体験、足摺ヤブツバキ再生活動など、自然資源を活かした環境学習の拡充	○	○	○	○	○	農林水産課 学校教育課 観光商工課	実施				
			6	本市へのＩターン、Ｕターン者への支援			○		○	企画財政課 観光商工課	実施				
テーマ２ 資源の価値を広める	③	ターゲットを明確にした情報発信	7	観光情報の発信状況の整理、見直し、および発信主体間での情報内容の共有と効果的な情報発信の方法についての検討	○	○	○	○	○	観光商工課	検討・実施				
			8	外国人観光客や体験観光、スポーツツーリズムなど、ターゲットを明確にした情報発信方法の検討、実施	○	○	○	○	○	生涯学習課 観光商工課	検討・実施				
			9	蓄積された環境情報などの活用検討		○	○	○	○	観光商工課		検討・実施			
			10	官民協働による市全体の誘客ＰＲ活動と竜串地区新施設の一体的なプロモーションの実施		○	○	○	○	観光商工課			実施		
			11	観光客の動態、宿泊利用の詳細など統計調査の実施		○	○	○	○	観光商工課	実施				
	④	体験プログラムの拡充	12	利用可能な体験プログラムの整理、見直し、および関係主体間の情報共有の検討			○	○	○	観光商工課	検討・実施				
			13	新たな体験プログラムの検討		○	○	○	○	農林水産課 生涯学習課 観光商工課	検討・実施				
	⑤	土佐清水の魅力を広める人材の確保・育成	14	ツアーガイド、インストラクターなどの人材の掘り起こし		○	○		○	観光商工課	実施				
			15	ジオガイド養成や観光ボランティアと連携した人材の拡充および受入体制の整備					○	観光商工課	実施				
			16	台湾の大学との人材交流の強化			○		○	観光商工課	実施				
	⑥	土佐清水ならではの「食」の提供	17	「食」をテーマにした取組の開催	○	○	○	○	○	農林水産課 観光商工課	実施				
			18	「清水サバ」をはじめとする旬の魚の安定供給に向けた関係主体間での検討	○	○	○		○	農林水産課 観光商工課		検討・実施			
	⑦	観光拠点施設の連携促進	19	各拠点間の人材交流および情報共有		○	○	○	○	企画財政課 観光商工課	実施				
			20	芝生広場、竜串地区東側の駐車場、桜浜などを活用した各種イベントの開催	○	○	○	○	○	観光商工課	実施				
	⑧	広域的な連携の促進	21	地区間共同および幡多広域観光協議会との協働によるツアープログラムの開発		○	○	○	○	観光商工課	検討・実施				
テーマ３ 観光の魅力を高める	⑨	二次交通の継続および拡大	22	「しまんと・あしずり号」の継続・拡大に向けた県および民間事業者への働きかけ		○	○	○	○	企画財政課 観光商工課	実施				
			23	民間事業者との連携による交通体系創出の検討		○	○		○	観光商工課		検討・実施			
	⑩	地区の一体感と活性化を育む整備の促進	24	竜串地区全体をつなぐ遊歩道の整備促進				○	○	観光商工課		検討・実施			
			25	サンゴ博物館の取り壊しおよび跡地利用の検討	○	○	○	○	○	観光商工課		検討・実施			
			26	「竜串休憩所」の取り壊し				○	○	観光商工課	実施				
			27	「ジオパークセンター」の設置の検討	○	○	○	○	○	観光商工課		検討・実施			
			28	「唐人駄場」の整備促進		○	○	○	○	観光商工課		検討・実施			
	⑪	観光関連施設等の整備促進	29	駐車場、休憩所、トイレ、遊歩道など、ユニバーサルデザインによる改修・整備		○	○	○	○	観光商工課	実施				
			30	「見残し」のトイレ整備				○	○	観光商工課	実施				
			31	案内看板の見直しおよび統一				○	○	観光商工課		実施			
			32	観光施設におけるWi-Fi環境の整備促進		○		○	○	観光商工課	実施				
			33	外国人観光客に対応したパンフレットなどの作成			○	○	○	観光商工課	実施				

実施　新規・継続・拡充して実施する取組

検討・実施　実施に向けて検討が必要な取組

第 4 章

マスタープランの進め方

5 年間の計画期間においてマスタープランの実現を図っていくために関係主体の役割や体制、プランの進捗管理の方法について整理します。

4-1 各主体の役割

マスタープランの推進にあたっては、市民、事業者、NPO 等観光関連団体、国・県等行政など、各主体が協働・連携を図りながら進めていく必要があります。

以下にマスタープランに係る各主体の役割を整理します。

◇市民の役割

本市の地域資源に対して、興味と探究心を持ち、観光資源として活かしていく意識を高めていきます。そのことによって地元への愛着心が育まれ、自信を持って観光客を迎え、おもてなしする気持ちが生まれます。本市の観光振興に向けて自分にもできることを考え、イベントや学習会などに積極的に参加していきます。

◇事業者の役割

事業者は、自らの活動が本市の観光振興に深く関わっていることを認識し、魅力ある観光商品の企画や観光客の受入に努めます。また、地域社会の一員として観光資源の保全活動やイベントなどにも積極的に参加するなど、社会貢献活動（CSR）を広げていきます。

◇NPO 等観光関連団体の役割

NPO 等観光関連団体は、本市観光を活性化させるため、それぞれが目標を持ち、人材の育成や「郷土愛」を醸成させる活動に取組みます。また、行政と連携しながら地域固有の資源を活かした体験観光やイベントの開催、PR 活動、新たな観光資源の発掘、土佐清水ブランドの開発など、本市の魅力を高める様々な活動を展開します。

◇国・県の役割

国や県は、関係する施設整備や運営、その他関係事業について、他の主体と情報を共有し、協働・連携しながら円滑に進めていきます。また、観光のベースとなる自然資源の保全や整備などを着実に実施するとともに、関係主体が主催するイベントなどへの支援も行い、かつ積極的に参加していきます。

◇市の役割

マスタープランをもとに観光まちづくりを実践すべく、関係主体と協働・連携して関連施策を着実に進めていきます。また、事業者および NPO 等観光関連団体への支援や指導、助言を積極的に行い、本市観光振興に取組んでいきます。

4-2　マスタープランの推進体制

マスタープランの推進にあたっては、関係主体が自らの役割を認識し、協働・連携しながら各取組を進めていきます（図 4-1）。

マスタープランの実施主体となる本市は、庁内関係各課が連携して円滑な施策の実施を図るとともに、観光商工課はプランの窓口となってプランの進捗管理や関係主体との情報共有を図ります。プランの全体管理は、「土佐清水市観光マスタープラン策定委員会」を改組し、「土佐清水市観光マスタープラン推進委員会」（以下、マスタープラン推進委員会）を組織して、その進捗管理や見直し、新たな取組などを協議・検討しながらプランの実効性・実現性を高めていくこととします。

このような観光振興に係る関係者が一堂に会して話し合える「場」を継続的につくることで、地域の一体感が育まれ、まちづくり観光としての礎を築くことになるものと考えられます。

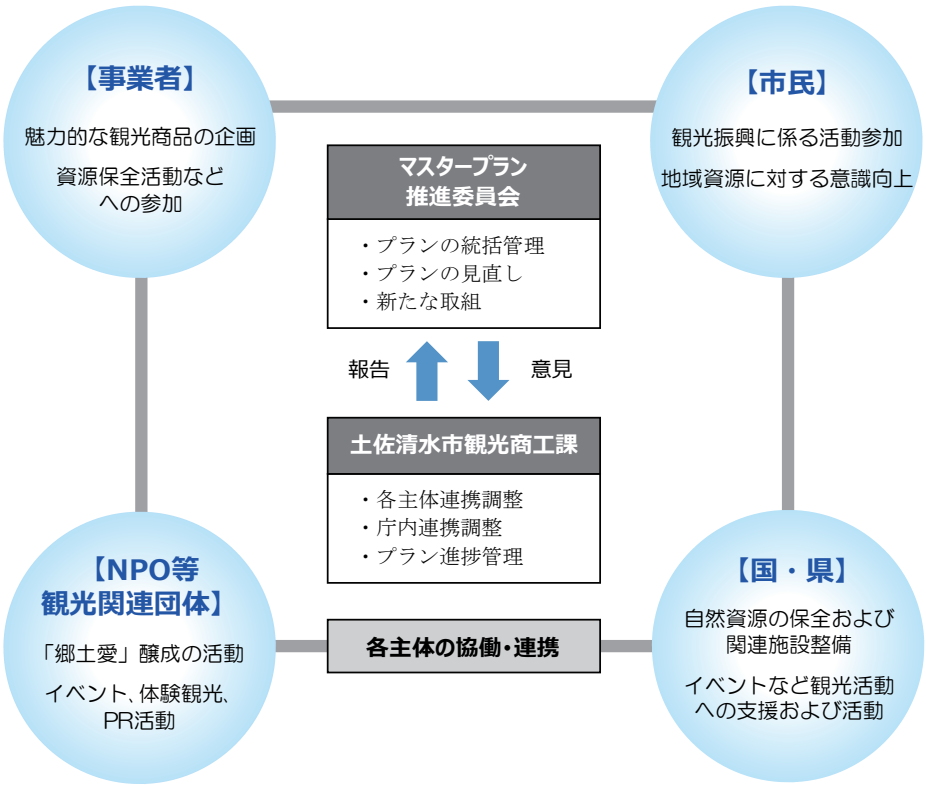


図 4－1　マスタープランの推進体制

４-3 プランの進捗管理

マスタープランに示した各取組は、その進捗状況などについて「マスタープラン推進委員会」においてチェックします。2019 年度に中間評価を実施し、必要に応じて取組の見直しなどを行います。

「マスタープラン推進委員会」は基本年 1 回の開催とし、本計画期間の最終年度に計画を総括するとともに、次期計画の方向性を検討します（表 4-1）。

表４－１　マスタープランの進捗管理

	2017	2018	2019		2020	2021
マスタープラン 【計画期間】 2017～2021 年度			中間評価			マスタープランの総括 次期計画の方向性
マスタープラン 推進委員会	①	②	③	④	⑤	⑥

参考・引用文献

土佐清水市観光マスタープランは、以下の文献および資料を参考に作成しています。本来は、本編中に参考とした文献の著者名と公表された年を記すべきですが（図の引用等一部は本編中にも記載）、計画書としての性質を考慮し省略しています。

中国四国地方環境事務所（2012）：平成 23 年度足摺宇和海国立公園足摺地域協働型管理運営体制構築事業に関する業務報告書．中国四国地方環境事務所，岡山．

中国四国地方環境事務所（2016a）：足摺宇和海国立公園竜串集団施設地区ビジターセンター（仮称）等整備基本計画．中国四国地方環境事務所，岡山．

中国四国地方環境事務所（2016b）：平成 27 年度竜串自然再生協議会運営体制構築等検討業務．中国四国地方環境事務所，岡山．

一般社団法人 幡多広域観光協議会（2015）：幡多広域観光振興計画．一般社団法人 幡多広域観光協議会，高知．

岩佐十良（2015）：里山を創生する「デザイン的思考」．株式会社 KADOKAWA，東京．

海津ゆりえ（2007）：日本エコツアー・ガイドブック．株式会社 岩波書店，東京．

観光地域づくり研究会（2005）：観光地域づくりカタログ～一地域一観光による地域振興～．株式会社 大成出版社，東京．

観光庁（2016）：観光ビジョン実現プログラム．観光庁．

高知県（2015）：高知県足摺海洋館基本計画．高知県，高知．

高知県（2016）：第 3 期高知県産業振興計画．高知県，高知．

高知県（2016）：高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略．高知県，高知．

尾家建生・金井萬造（2008）：これでわかる！着地型観光 地域が主役のツーリズム．株式会社 学芸出版社，京都．

島川崇（2002）：観光につける薬 サスティナブル・ツーリズム理論．株式会社 同友館，東京．

スー・ビートン（著）・小林英俊（訳）（2002）：エコツーリズム教本 先進国オーストラリアに学ぶ実践ガイド．株式会社 平凡社，東京．

土佐清水市（2013）：竜串地区活性化基本構想．土佐清水市，高知．

土佐清水市（2015）：土佐清水ジオパーク構想推進計画．土佐清水市，高知．

土佐清水市（2015）：まち・ひと・しごと創生総合戦略．土佐清水市，高知．

土佐清水市（2016）：第 7 次土佐清水市総合振興計画．土佐清水市，高知．

株式会社 リクルート旅行カンパニー（2010）：土佐清水市〈竜串〉GAP 調査報告書．株式会社 リクルート．

写真提供等協力者

土佐清水市観光マスタープランは、以下の機関に写真提供等の御協力をいただきました。

・Taiwan VIP Travel
表紙：星空
・竜串ダイビングセンター
裏表紙：体験ダイビング
・中国四国地方環境事務所
P10：見残し、竜串海岸、竜串海域公園／P11：グラスボート／P37：オニヒトデ駆除／P38：間伐体験／P41：シュノーケリング教室／P42：観光ボランティア／P46：遊歩道の現状、サンゴ博物館、竜串休憩所、案内看板の現状

マスタープラン策定の体制および経緯等

◇土佐清水市観光マスタープラン策定委員会 委員名簿

	氏名	所属・役職等
委員長	西宮 正夫（にしみやまさお）	（一社）土佐清水市観光協会　会長
委員	岩瀬 文人（いわせふみひと）	大月町　地域資源活性化推進員
〃	江口 悟（えぐちさとる）	（一社）幡多広域観光協議会　事務局長
〃	国澤 一彦（くにさわかずひこ）	（特非）NPO 竜串観光振興会　会長
〃	田村 卓実（たむらたくみ）	土佐清水市旅館組合　組合長
〃	程岡 庸（ほどおかよう）	土佐清水市商工会議所　会頭
〃	山﨑 五十鈴（やまさきいすず） 富田 無事生（とみたぶじお）	土佐清水市観光ボランティア会　会長（2016 年 12 月 31 日まで） 土佐清水市観光ボランティア会　会長（2017 年 1 月 1 日より）
〃	山下 淳一（やましたじゅんいち）	環境省土佐清水自然保護官事務所　自然保護官
〃	磯脇 堂三（いそわきたかみつ）	土佐清水市　副市長
〃	早川 聡（はやかわさとし）	土佐清水市企画財政課　課長

敬称略（所属等は 2017 年 3 月現在）

◇土佐清水市観光マスタープラン策定 作業部会 委員名簿

	氏名	所属・役職等
1	竹池 亮（たけいけりょう）	企画財政課　係長
2	酒井 満（さかいみちる）	観光商工課 ジオパーク推進室　室長
3	由岐 直久（ゆきなおひさ）	観光商工課　係長
4	山本 悟（やまもとさとる）	農林水産課　係長
5	浜田 三幸（はまだみつゆき）	農林水産課　係長
6	酒井 礼（さかいあや）	生涯学習課　係長

敬称略（所属等は 2017 年 3 月現在）

◇土佐清水市観光マスタープラン策定の経緯

会議名	日時・場所	内容
第1回土佐清水市観光マスタープラン策定委員会	2016年10月27日（木） 14:00～16:00 土佐清水市役所2F第4会議室	＊委員長選出 ＊土佐清水市観光マスタープラン策定について ・策定の趣旨 ・観光の現況と課題 ・観光関連計画 ・観光の目指すすがた　等
第1回土佐清水市観光マスタープラン策定作業部会	2016年10月27日（木） 16:00～17:30 土佐清水市役所2F第4会議室	＊土佐清水市観光マスタープラン策定について ・策定の趣旨 ・観光の現況と課題 ・観光関連計画 ・観光の目指すすがた　等
第2回土佐清水市観光マスタープラン策定作業部会	2017年1月20日（金） 14:00～15:30 土佐清水市役所2F第3会議室	＊土佐清水市観光マスタープラン（素案）について ・コンセプトと目標 ・マスタープランの実現戦略 ・マスタープランの進め方
第2回土佐清水市観光マスタープラン策定委員会	2017年1月23日（月） 14:00～16:00 土佐清水市役所2F第1会議室	＊土佐清水市観光マスタープラン（素案）について ・コンセプトと目標 ・マスタープランの実現戦略 ・マスタープランの進め方
第3回土佐清水市観光マスタープラン策定委員会	2017年2月27日（月） 13:30～16:30 土佐清水市役所3F会議室	＊土佐清水市観光マスタープラン（案）について ・観光の目指すすがた ・マスタープランの実現戦略
第4回土佐清水市観光マスタープラン策定委員会	2017年3月24日（金） 15:30～16:30 土佐清水市役所2F第1会議室	＊土佐清水市観光マスタープラン（案）の確認

土佐清水市観光マスタープラン　－地区連携による「観光まちづくり」－

平成 29 年 3 月

発行・編集　土佐清水市観光商工課

〒787-0392 高知県土佐清水市天神町 11-2
TEL:0880-82-1212／FAX:0880-82-1126
E-Mail:kanshou@city.tosashimizu.lg.jp